

# 草津市廃棄物減量等推進審議会

## 第 4 回 審 議 会

日時：平成18年10月26日（木）

10：00～12：00

場所：草津市役所 8階大会議室

### 会 議 議 事 次 第

#### 1. 開 会

- 1) 挨拶：草津市
  - ・ 審議会の今後の予定について
  - ・ 新委員の紹介

#### 2. 議 事

- 1) ごみの分別・資源化等に関するアンケート調査結果について
- 2) ごみ組成分析調査結果について
- 3) ごみ分別見直しにかかる現状の課題整理について

#### 【資 料】

- 資料－1 委員名簿
- 資料－2 審議会工程
- 資料－3 ごみの分別・資源化等に関するアンケート調査報告書
- 資料－4 ごみ組成分析調査報告書
- 資料－5 ごみ分別見直しにかかる現状の課題整理

## 草津市廃棄物減量等推進審議会委員名簿

## [委員]

氏名	所属	役職	備考
天野 耕二	立命館大学理工学部 環境システム工学科	教授	
金谷 健	滋賀県立大学環境科学部 環境計画学科	助教授	
大村 久雄	草津市自治連合会		
青木 和子	ごみ問題を考える草津市民会議		
田中 征子	一般公募		
妹尾 志郎	一般公募		
坪田 貴尋	キヤノンマシナリー株式会社 経営企画部	総務人事グループマネージャー 兼 安全環境マネージャー	
<b>藤井 淳</b>	<b>株式会社平和堂 アル・プラザ草津</b>	<b>支配人</b>	
富板 勝	滋賀県南部振興局環境森林整備課	課長	
権田 五雄	大五産業株式会社	専務取締役	

## [事務局等]

人権環境部			
中島 直樹	人権環境部	部長	
田村 雅男	市民環境担当理事	理事	
梅景 聖夜	クリーンセンター	所長	

事務局			
松田 政義	クリーン事業課	課長	
森 安 幸	クリーン事業課啓発推進グループ	グループ長	
矢野 秀樹	クリーン事業課計画調整グループ	グループ長	
木村 博	クリーン事業課計画調整グループ	専門員	

コンサルタント			
笹井 裕	東和科学株式会社 関西支店	支店長	
亀谷 達哉	東和科学株式会社 関西支店	担当	
藤満 基樹	東和科学株式会社 関西支店	調査担当	

## 草津市廃棄物減量等推進審議会 工程表

年度	月	開催日	回数	審議内容
17	3	第1回審議会(3月10日)	1	・国・県の動向 ・草津市のごみ処理の概要(現状と課題)
18	4			
	5			
	6	第2回審議会(6月23日)	1	・ごみ量の将来推計と処理能力 ・アンケート調査項目 ・組成調査速報
	7			
	8	第3回審議会(8月29日)	2	・ごみ分別見直し 先進地視察(栗東市) ・草津市クリーンセンター視察  ・ごみ分別見直しについて(その1) (草津市のごみ分別の現状と問題点)
	9			
	10	第4回審議会(10月26日)	3	・組成調査、アンケート調査結果報告  ・ごみ分別見直しについて(その2) (ごみ分別見直しにかかる現状の課題整理)
	11	第5回審議会(下旬)	4	・ごみ分別見直しについて(その3) (今までの審議結果をふまえた分別見直し案による審議)
	12			
	1	第6回審議会(中旬)	5	・ごみ分別見直し・有料化にかかる 先進地視察(近畿圏内、日帰り)
	2	第7回審議会(中旬)	6	・ごみ分別見直し案とりまとめ (パブリックコメント用)  ・ごみ有料化について (ごみ有料化にかかる国県の動向と他市の状況) ・ごみ有料化見直しについて(その1) (草津市におけるごみ有料化にかかる現状の課題整理)
	3			
19	4	第8回審議会(中旬)	1	・ごみ有料化見直しについて(その2)
	5	第9回審議会(中旬)	2	・ごみ有料化見直しについて(その3)
	6	第10回審議会(中旬)	3	・ごみ有料化見直し案とりまとめ (パブリックコメント用)  (パブリックコメントの実施)
	7			
	8			
	9	第11回審議会(中旬)	4	・パブリックコメント 市民意見聴取結果の報告 ・答申案の審議
	10	第12回審議会(中旬)	5	・答申書とりまとめ
	11			
	12			審議会委員長より市長へ答申
	1			
	2			
	3			

# ごみの分別・資源化等に関するアンケート調査

## 調査結果報告書

平成 18 年 10 月

草 津 市



## 目 次

### I.市民アンケート調査結果

1.アンケート回収状況.....	1
2.回答者の内訳.....	1
3.ごみ行政に関する情報.....	5
4.ごみの排出状況について.....	6
5.指定袋について.....	18
6.ごみ減量化に効果がある施策.....	23
7.資源化の推進に係る協力度.....	24
8.プラスチックごみの分別区分の見直しについて.....	27

### II.事業者アンケート調査結果

1.アンケート回収状況.....	28
2.事業者の概要.....	28
3.ごみや資源ごみの排出方法について.....	31
4.処理費用について.....	34
5.ごみの資源化・減量化への意識調査.....	35

### III.アンケート調査結果の総括

1.市民アンケート調査結果.....	37
2.事業者アンケート調査結果.....	39



## I. 市民アンケート調査結果

### 1. アンケート回収状況

アンケート調査対象 2,700 世帯のうち、平成 18 年 9 月 13 日現在にて寄せられた回答数は 861 通であるため、回収率は 31.9%となる。

### 2. 回答者の内訳

#### 2-1 性別

本アンケート調査における回答者（ごみの排出者）は表 1-1 に示すとおり男性 38.1%に対し女性 59.6%となり、女性の割合が高いことがわかる。

表 1-1 回答者の性別

	男性	女性	未回答	合計
回答数	328	513	20	861
構成率	38.1%	59.6%	2.3%	100.0%

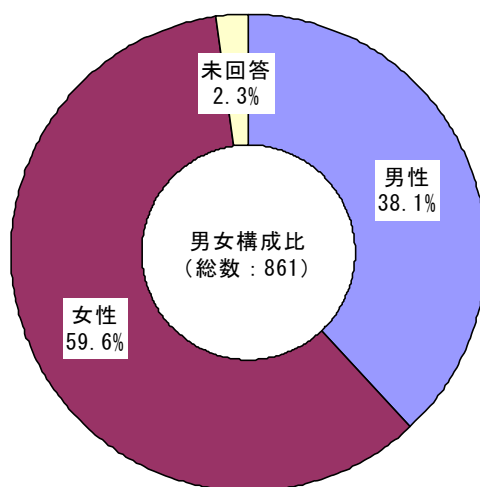


図 1-1 回答者の性別



## 2-2 回答者の年齢

回答者の年齢は60歳以上が41.9%（361）を占め、次いで40～60歳が30.9%（266）、20～40歳が25.8%（222）、20歳未満は0.2%（2）となった。

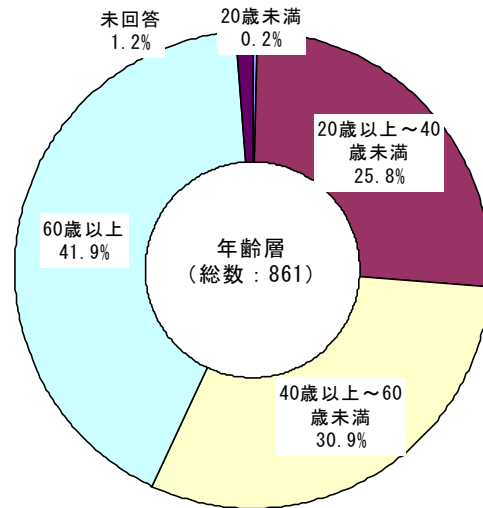


図 1-2 回答者の年齢

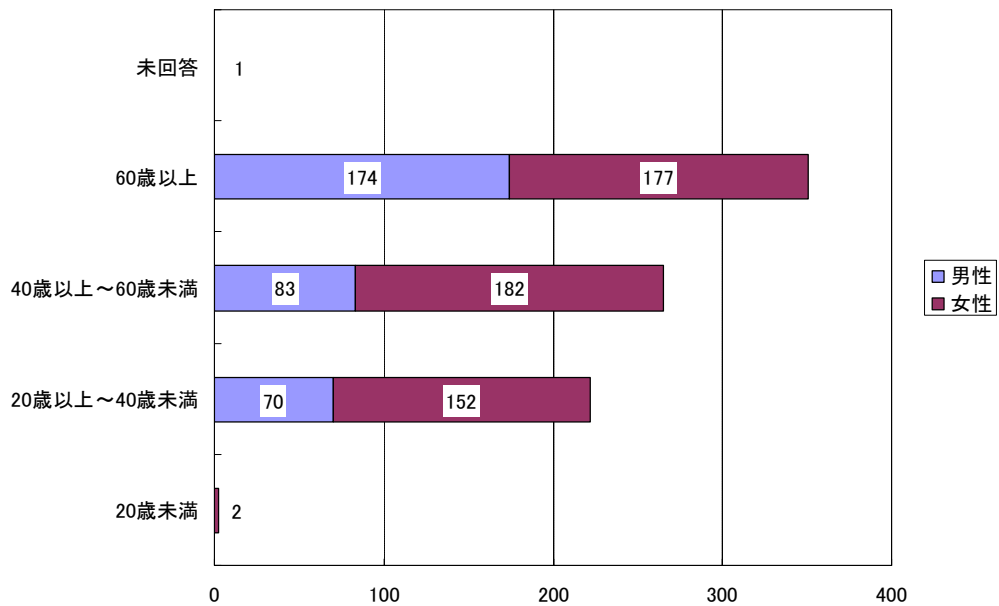


図 1-3 回答者の年齢（性別）※性別未回答者は除く

### 2-3 世帯人数

回答者の世帯構成人数を図 1-4 に示す。

1 世帯あたり 2 人が最も多く、次いで 3 人、4 人となり、2~4 人世帯が全体の 67.1% を占める。

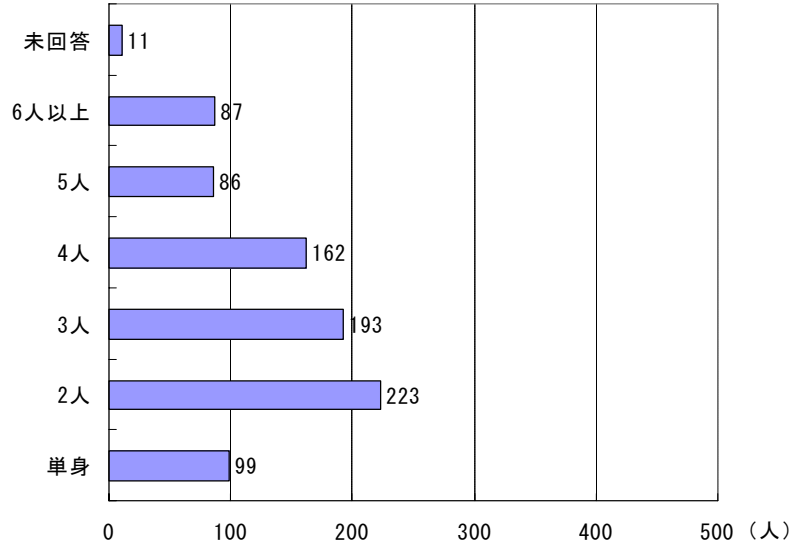


図 1-4 世帯人数

### 2-4 回答者の住所（小学校区）

回答者の住所（小学校区）は、矢倉地区が最も多く次いで志津、山田地区と比較的低層住宅地域からの回答が多かった。

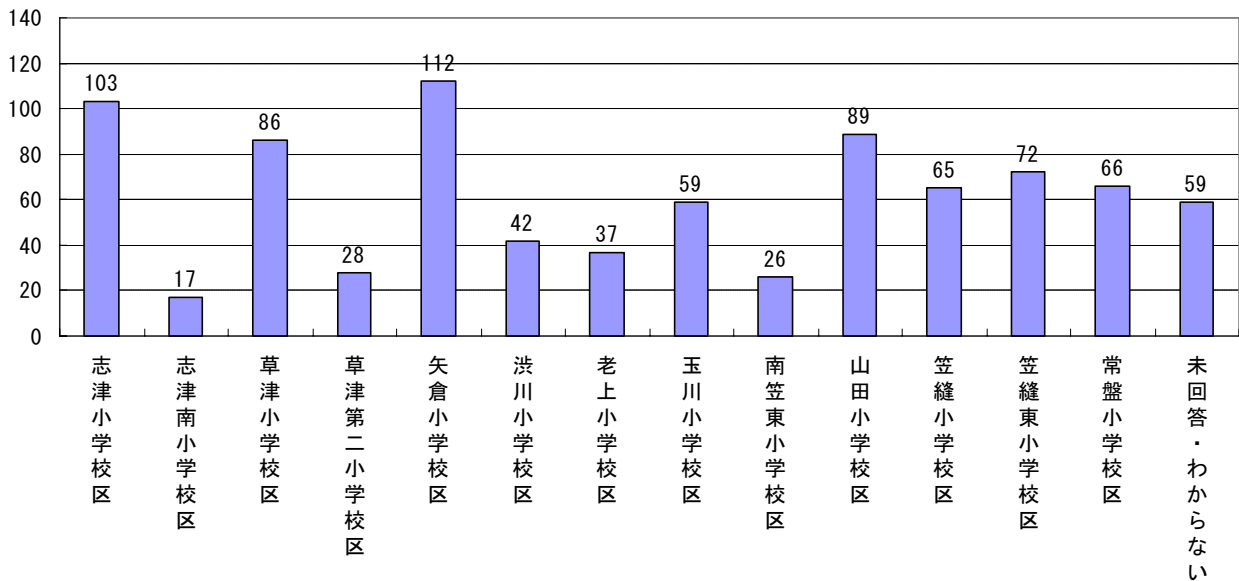


図 1-5 回答者の小学校区

### 2-3 住居形態及び住居年数

回答者の住居形態は一戸建てが74.7%（644）、アパートやマンションなどの集合住宅が24.0%（207）となった。

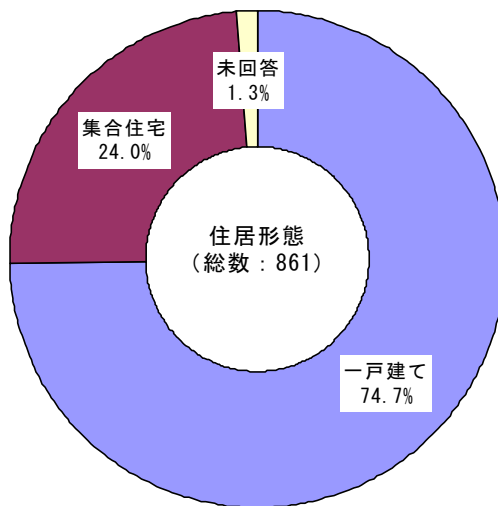


図 1-6 住居形態

また、居住年数は30～50年が最も多く、30年以上居住している回答者は全体の56.4%と、古くから本市に居住の回答者が過半数以上を占めた。

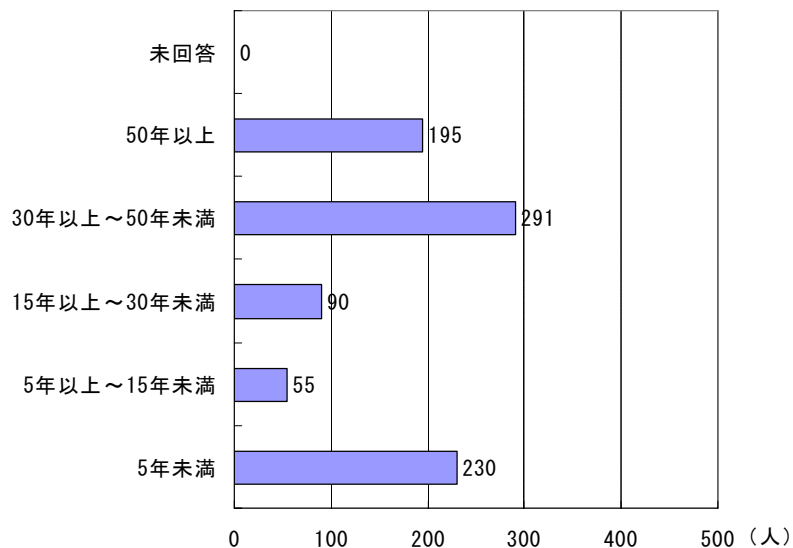


図 1-7 居住年数

### 3.ごみ行政に関する情報

#### 3-1 知りたいごみ行政の情報

回答者が知りたいごみ行政に関する情報は、「ごみの分別方法に関する情報」が、524 と最も多く、次いで「ごみを減量していくための方法に関する情報」、「市が行っている資源化の状況に関する情報」となった。

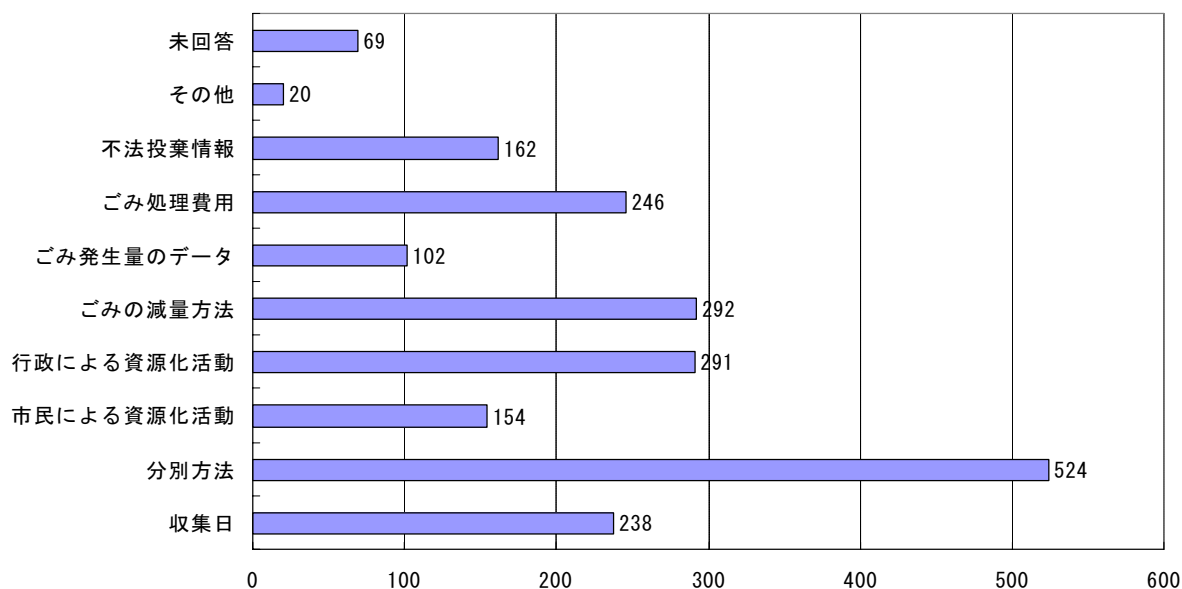


図 1-8 知りたいごみ行政の情報

#### 3-2 情報提供方法

回答者にとって本市からの情報提供方法としては市の広報「くさつ」、町内会の回覧が便利であるとの回答が得られた。

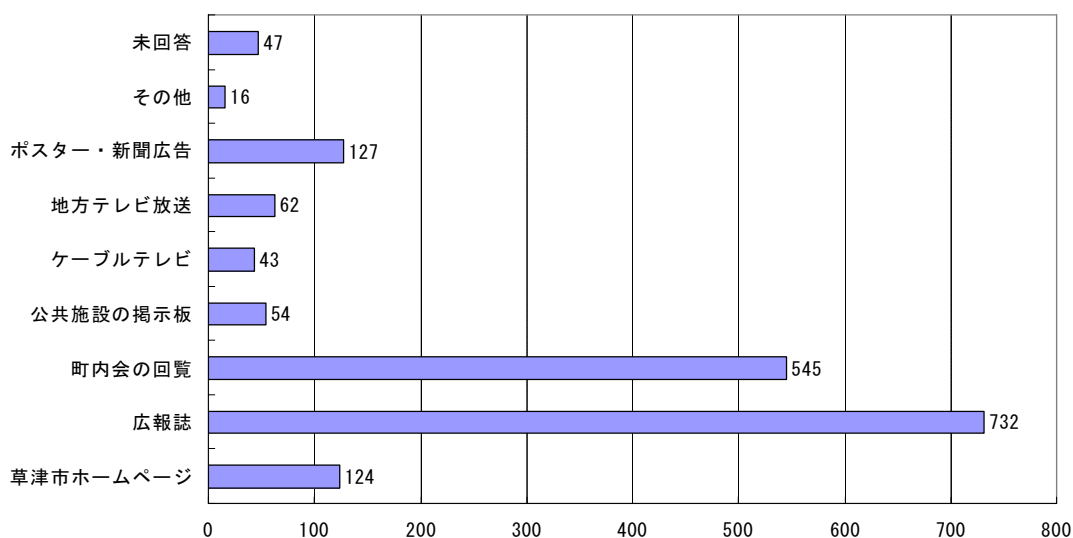


図 1-9 情報提供方法

#### 4.ごみの排出状況について

##### 4-1 ごみの減量化の方法

回答者が家庭で実施しているごみ減量化の方法は、シャンプーや洗剤などの「詰め替え製品の購入」が最も多く、「生ごみの水切り」、「地域の資源回収活動への協力」、「マイバックの持参」等の実施も多いことが確認できた。

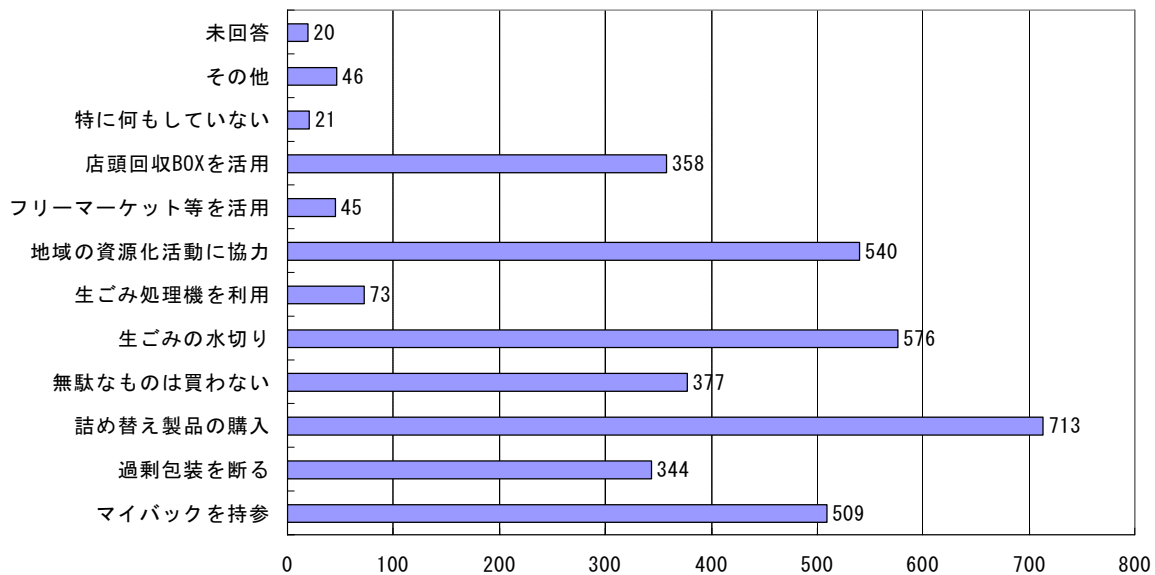


図 1-10 家庭でのごみ減量化の方法

##### 4-2 分かりにくい分別区分

本市におけるごみの分別区分では、「不燃物類」と「小型破碎ごみ」が分かりにくいと考えられていることが判る。

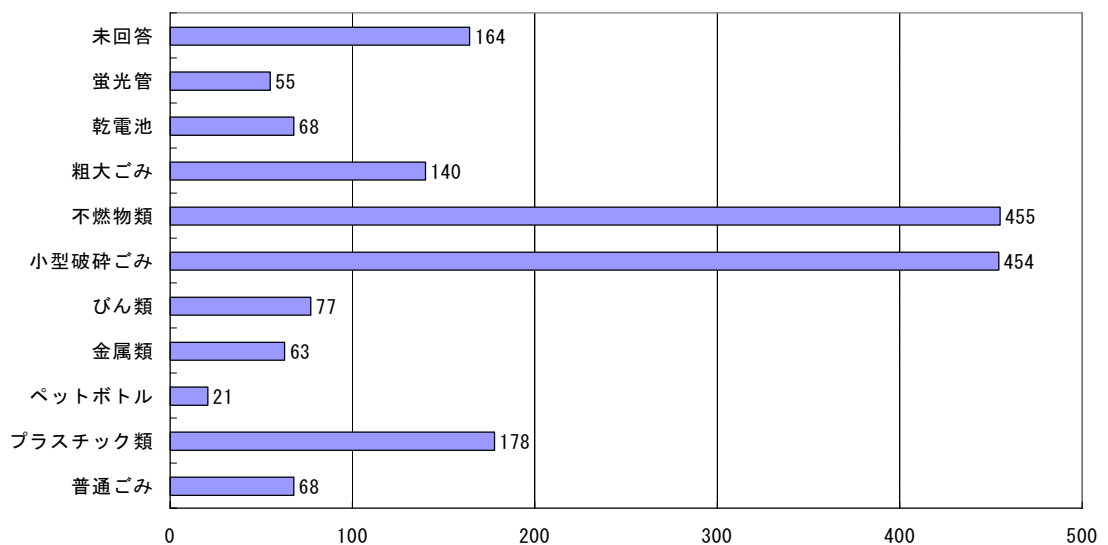


図 1-11 分かりにくい分別区分

#### 4-3 個別ごみの排出方法

回答者が各種ごみを排出する際、個別のごみにおける分別区分の回答を図 1-12-1～14 に示す。

##### ①運動靴〔普通ごみ類〕

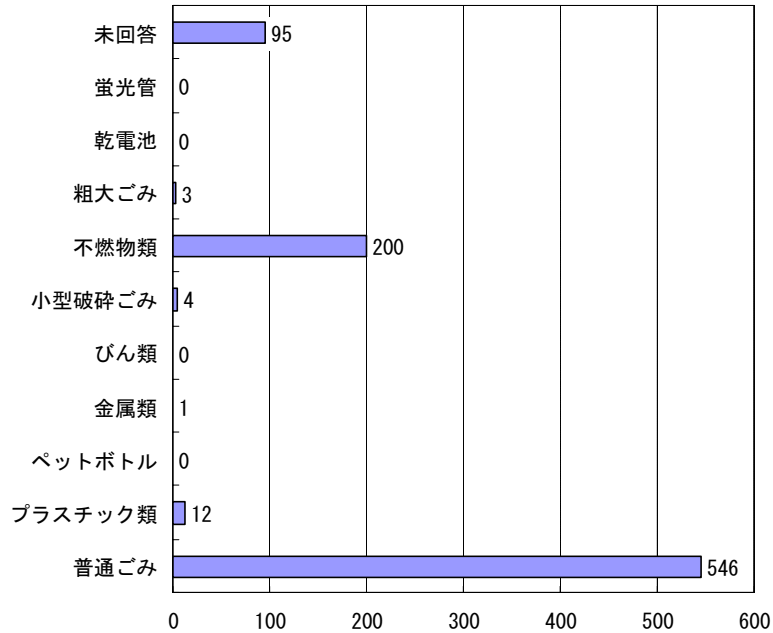


図 1-12-1 運動靴の排出方法

##### ②散水ホース〔不燃物類〕

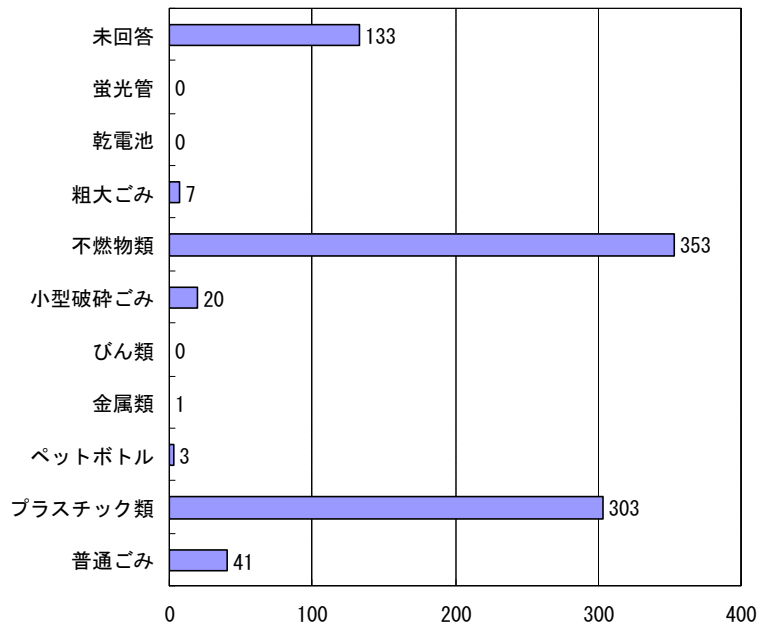


図 1-12-2 散水ホースの排出方法

③皮製のバッグ〔普通ごみ類〕

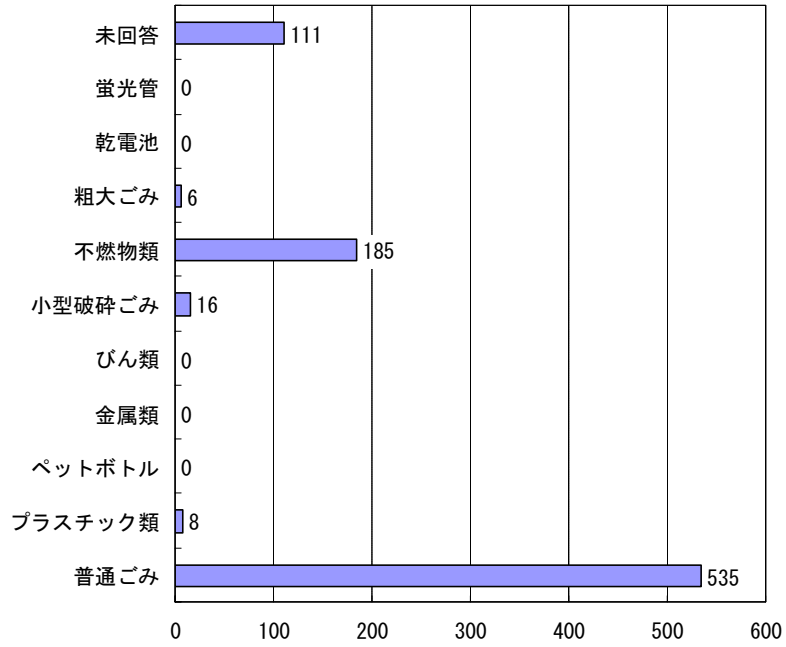


図 1-12-3 皮製バッグの排出方法

④紙おむつ〔普通ごみ類〕

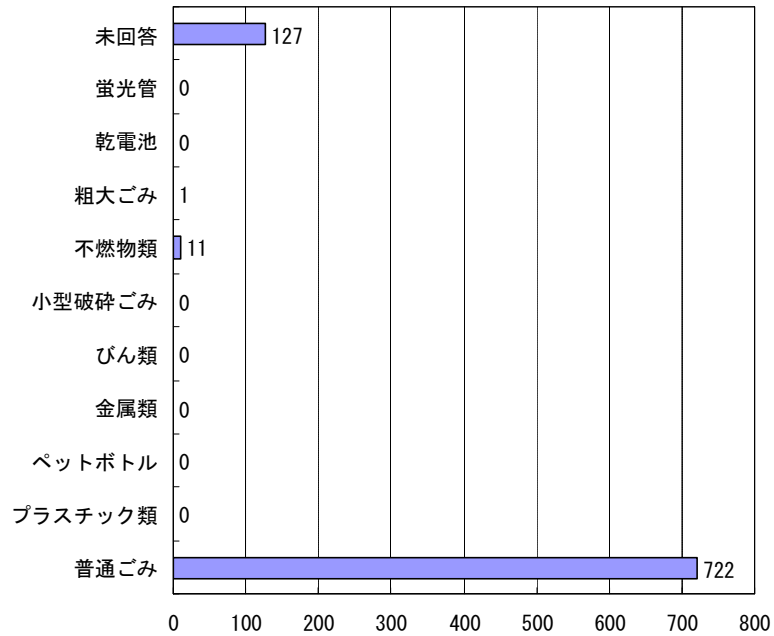


図 1-12-4 紙おむつの排出方法

⑤水筒〔小型破碎ごみ類〕

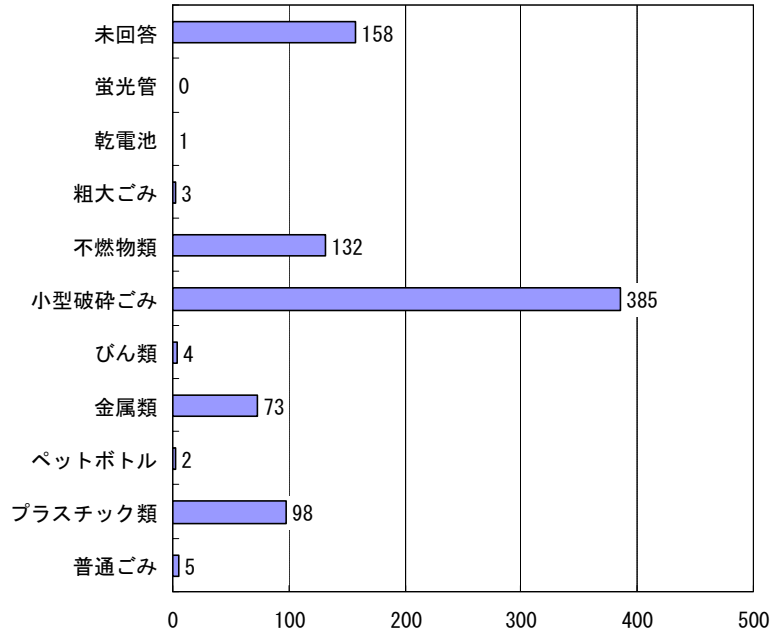


図 1-12-5 水筒の排出方法

⑥外がビニールで内側がアルミ箔のお菓子の袋〔普通ごみ類〕

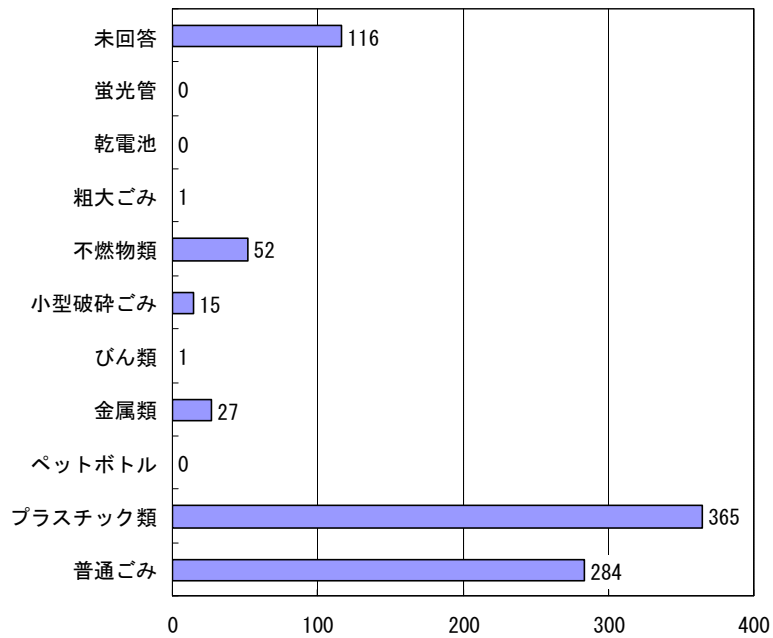


図 1-12-6 外がビニールで内側がアルミ箔のお菓子の袋の排出方法



⑦カセットテープ〔プラスチック類〕

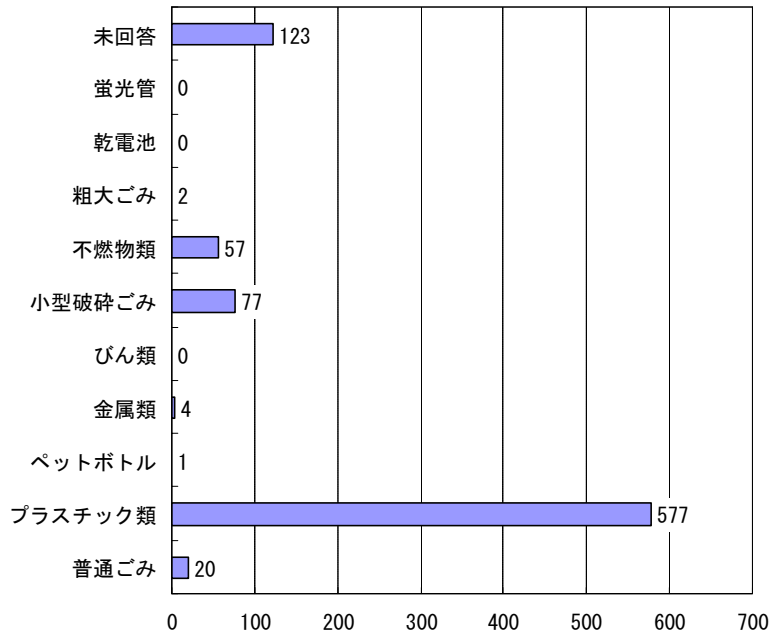


図 1-12-7 カセットテープの排出方法

⑧化粧びん〔不燃物類〕

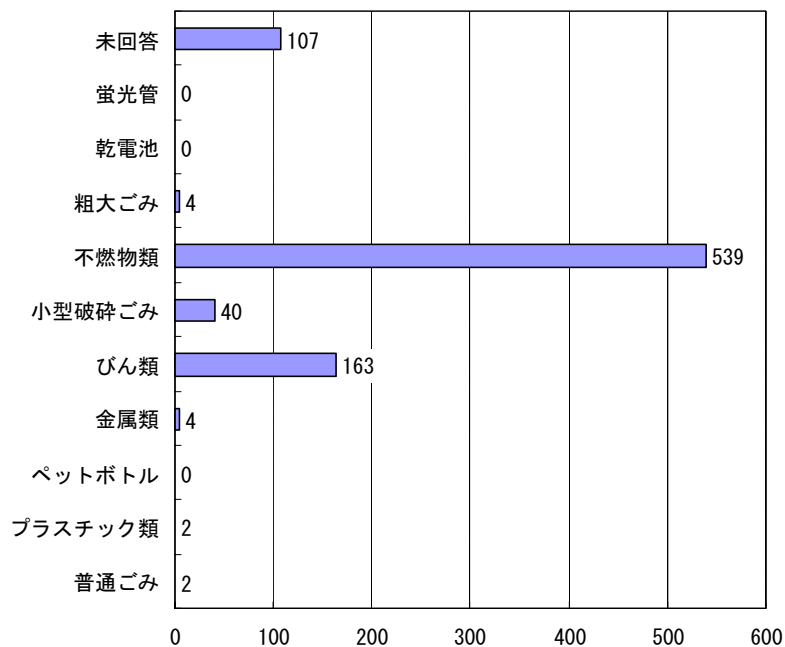


図 1-12-8 化粧びんの排出方法

⑨使い捨てライター〔不燃物類〕

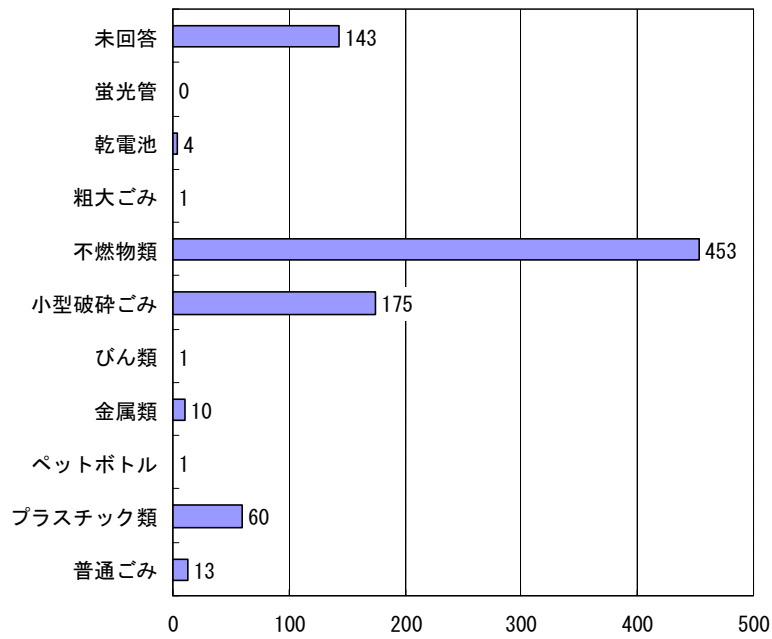


図 1-12-9 使い捨てライターの排出方法

⑩アルミホイール〔金属類〕

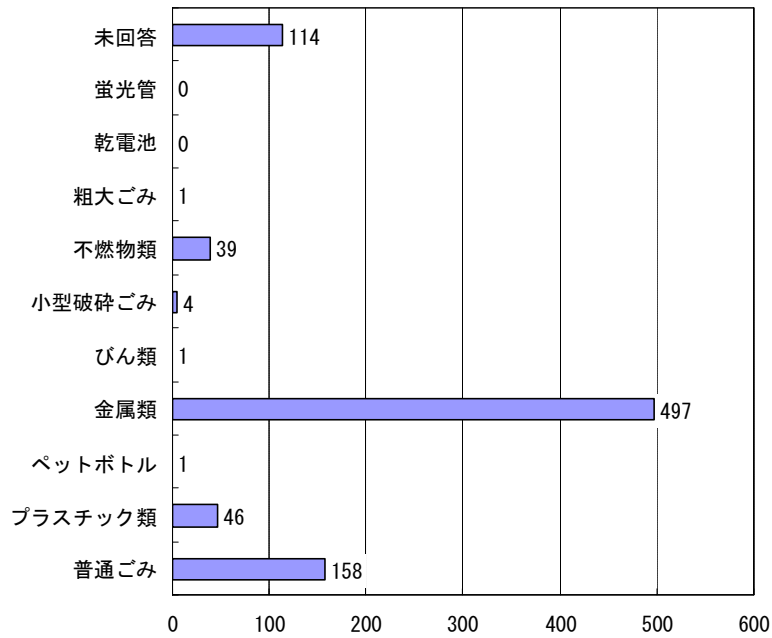


図 1-12-10 アルミホイールの排出方法

⑪ラップ類〔プラスチック類〕

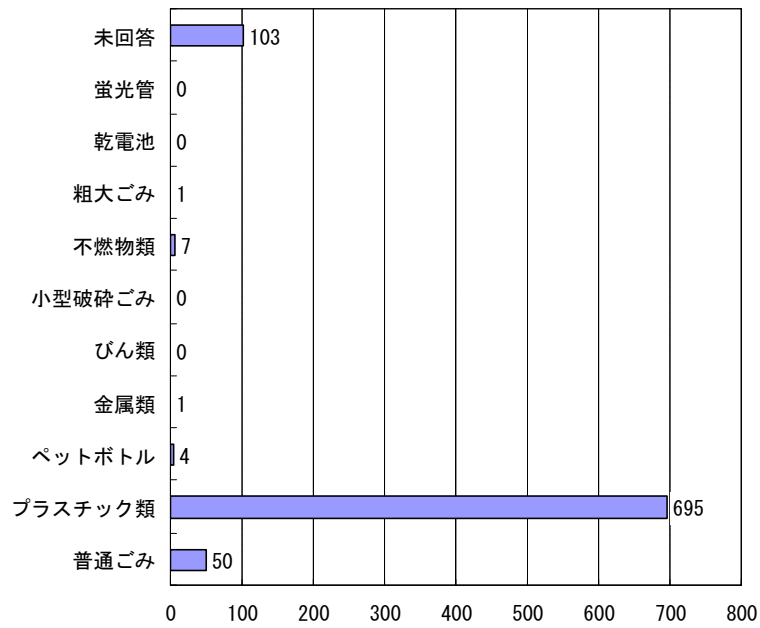


図 1-12-11 ラップ類の排出方法

⑫保冷・保温材〔中身：普通ごみ類、外側：プラスチック類〕

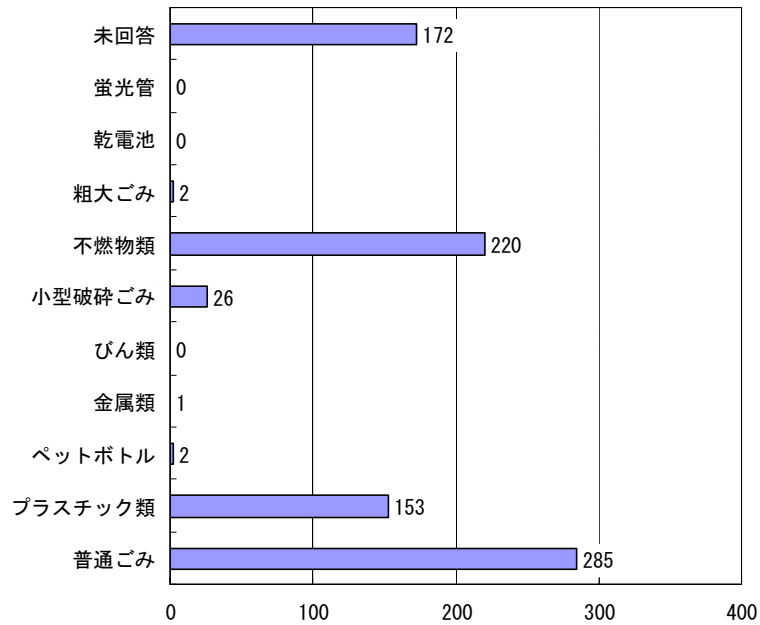


図 1-12-12 保冷・保温材の排出方法

⑬乾燥剤〔普通ごみ類〕

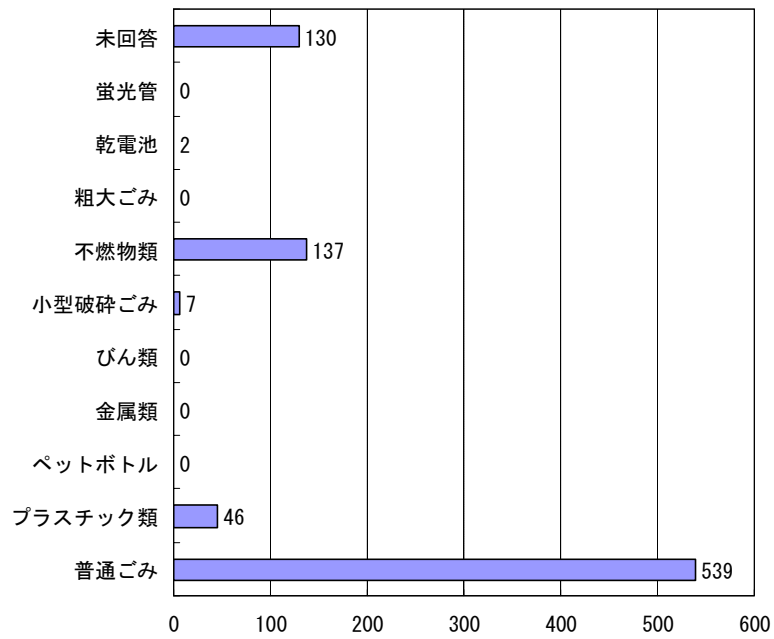


図 1-12-13 乾燥剤の排出方法

⑭ペット用具（猫砂など）〔不燃物類〕

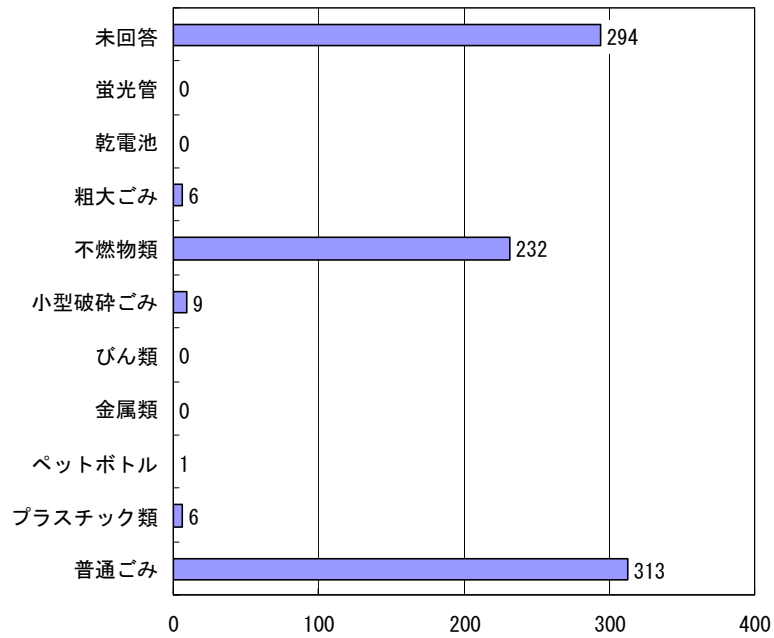
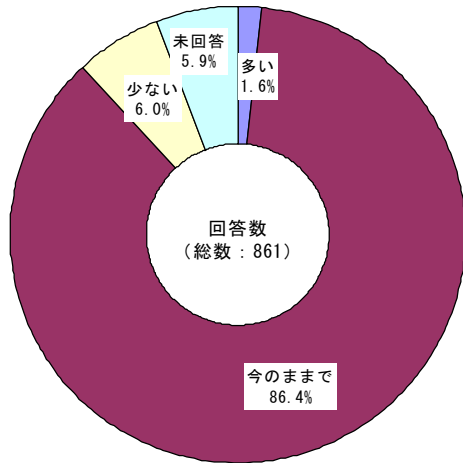


図 1-12-14 ペット用具（猫砂など）の排出方法

#### 4-4 ごみ収集回数の満足度

種類ごとのごみ収集回数の満足度を図 1-13-1~8 に示す。プラスチック類以外は、現状の収集回数でも満足度は高いという回答を得た。

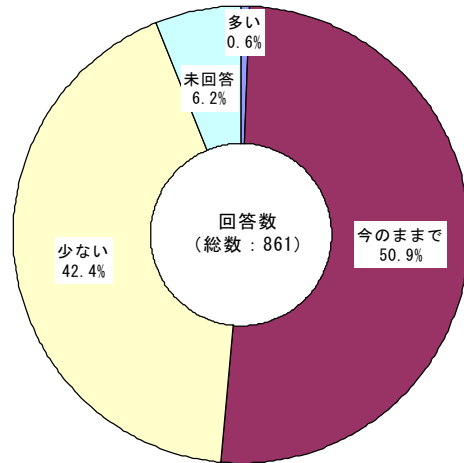
①普通ごみ類



	多い	今のままで	少ない	未回答
普通ごみ類	14	744	52	51

図 1-13-1 普通ごみ類収集回数満足度

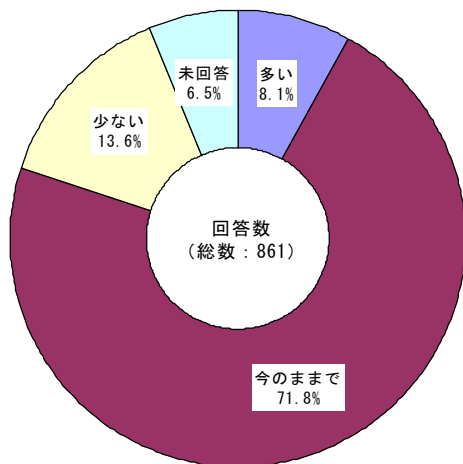
②プラスチック類



	多い	今のままで	少ない	未回答
プラスチック類	5	438	365	53

図 1-13-2 プラスチック類収集回数満足度

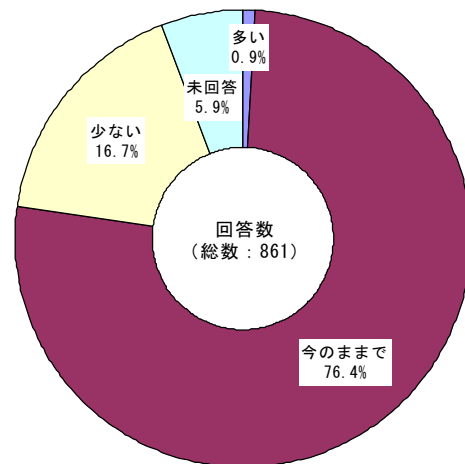
③ペットボトル類



	多い	今のままで	少ない	未回答
ペットボトル類	70	618	117	56

図 1-13-3 ペットボトル類収集回数満足度

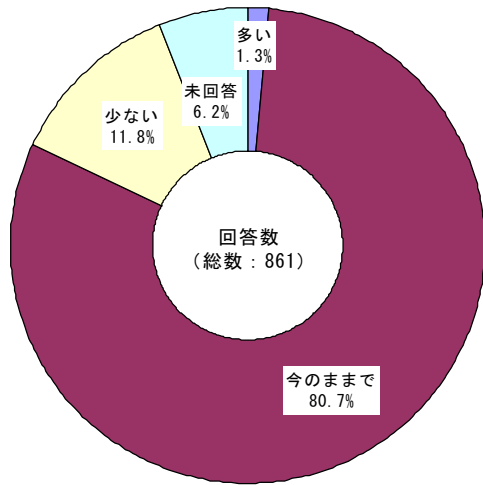
④金属類



	多い	今のままで	少ない	未回答
金属類	8	658	144	51

図 1-13-4 金属類収集回数満足度

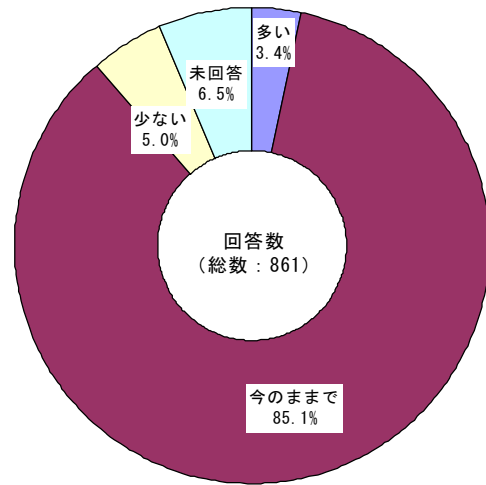
⑤びん類



	多い	今のままで	少ない	未回答
びん類	11	695	102	53

図 1-13-5 びん類回数満足度

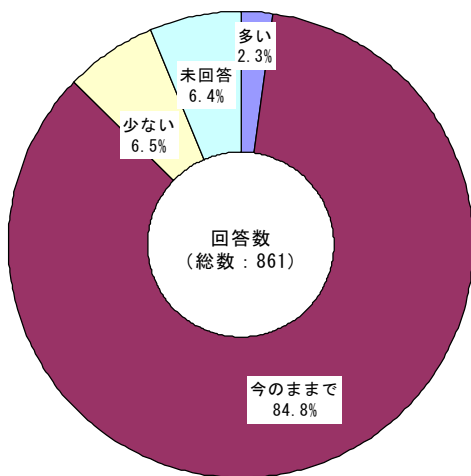
⑥小型破碎ごみ類



	多い	今のままで	少ない	未回答
小型破碎ごみ類	29	733	43	56

図 1-13-6 小型破碎ごみ類収集回数満足度

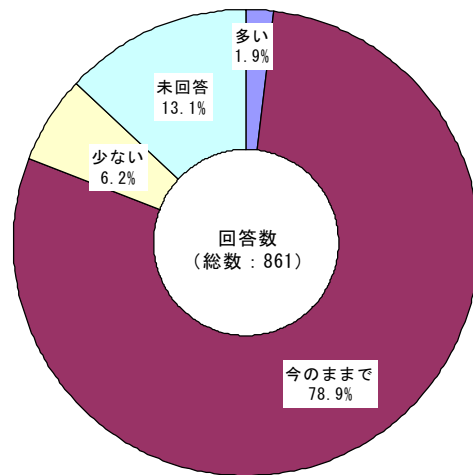
⑦不燃物類



	多い	今のままで	少ない	未回答
不燃物類	20	730	56	55

図 1-13-7 不燃物類収集回数満足度

⑧粗大ごみ



	多い	今のままで	少ない	未回答
粗大ごみ	16	679	53	113

図 1-13-8 粗大ごみ収集回数満足度

また、ごみ種別毎の収集回数が、少ないと回答されたもののうち、具体的に収集頻度を回答されたものを図 1-13-9～16 に示す。

⑨普通ごみ類

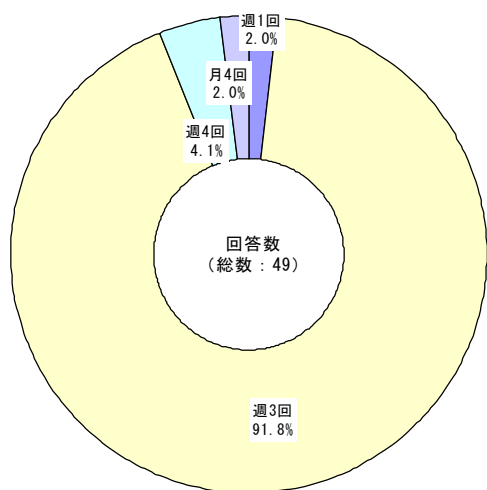


図 1-13-9 普通ごみ類必要収集頻度

⑩プラスチック類

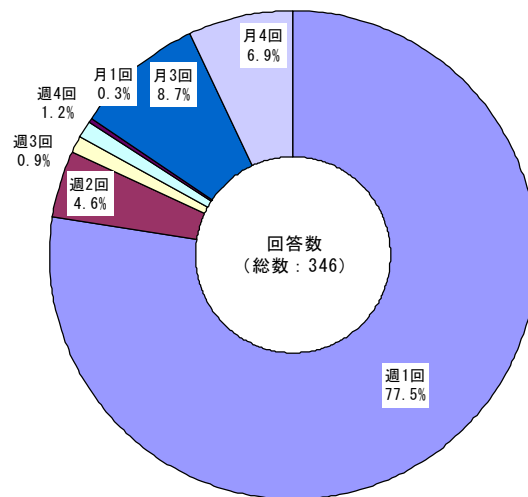


図 1-13-10 プラスチック類必要収集頻度

⑪ペットボトル類

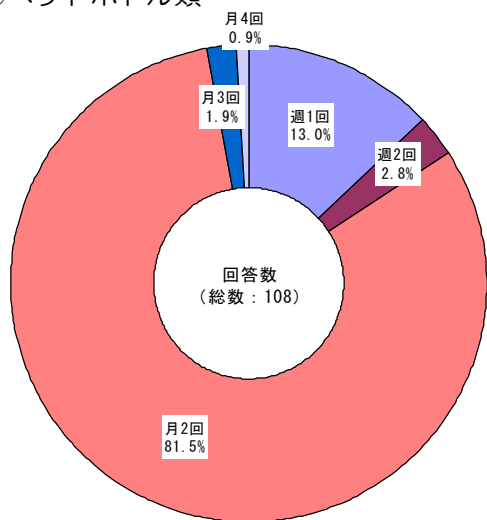


図 1-13-11 ペットボトル類必要収集頻度

⑫金属類

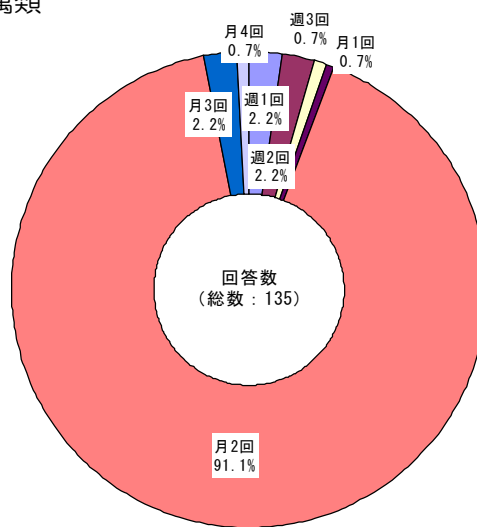


図 1-13-12 金属類必要収集頻度

⑬びん類

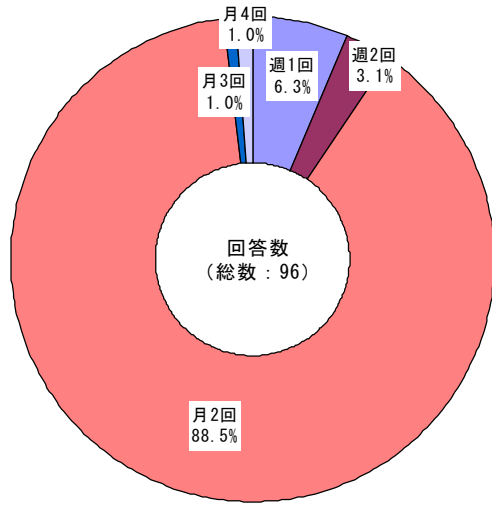


図 1-13-13 びん類必要収集頻度

⑭小型破碎ごみ類

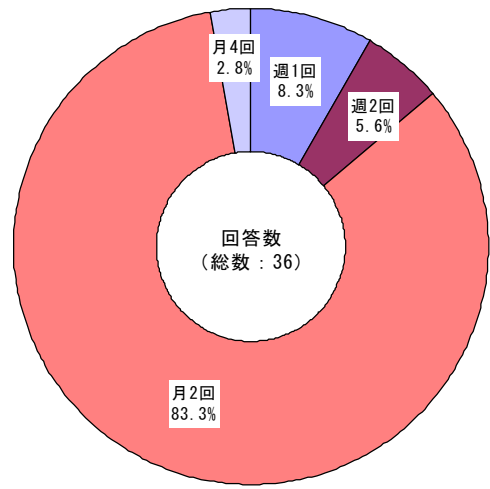


図 1-13-14 小型破碎ごみ類必要収集頻度

⑮不燃物類

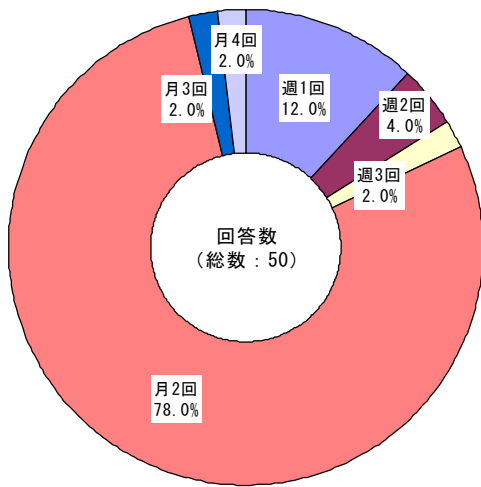


図 1-13-15 不燃物類必要収集頻度

⑯粗大ごみ

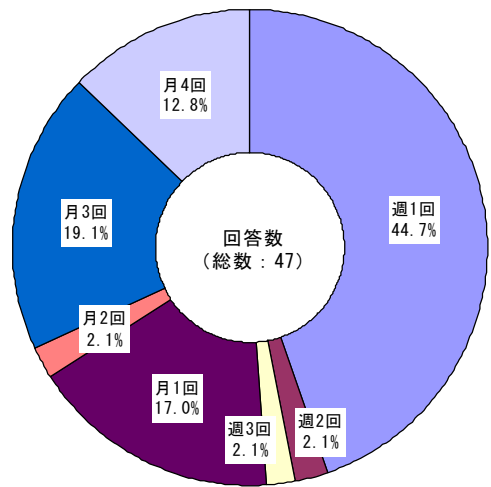


図 1-13-16 粗大ごみ必要収集頻度



## 5.指定袋について

### 5-1 指定袋の使用枚数

ごみ種毎における1ヶ月当りの指定袋の使用枚数を表1-2及び図1-14-1～3に示す。

表1-2 指定袋の使用枚数

	1枚以下/月	2枚/月	3枚/月	4枚/月	5枚/月	6枚/月	7枚/月	8枚/月	9枚/月	10枚以上/月	未回答
普通ごみ類	5	15	9	47	48	38	15	218	123	244	99
プラスチック類	48	236	235	129	52	20	5	10	2	18	106
ペットボトル類	549	90	17	7	12	0	1	1	0	4	180

#### ①普通ごみ類

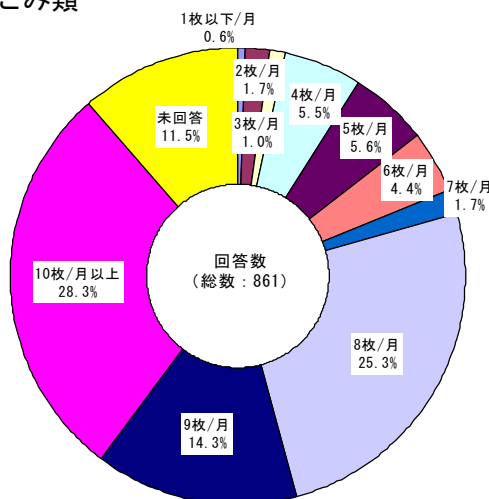


図1-14-1 普通ごみ類指定袋使用枚数

#### ②プラスチック類

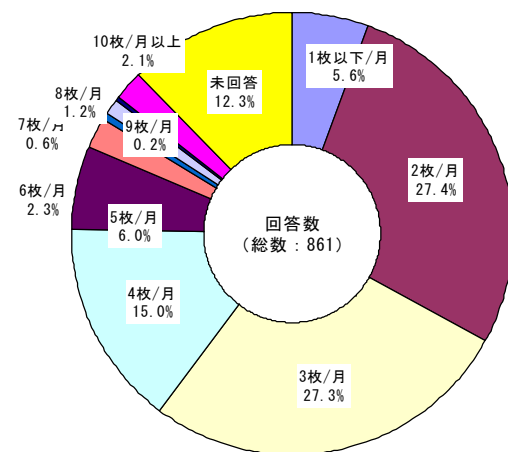


図1-14-2 プラスチック類指定袋使用枚数

#### ③ペットボトル類

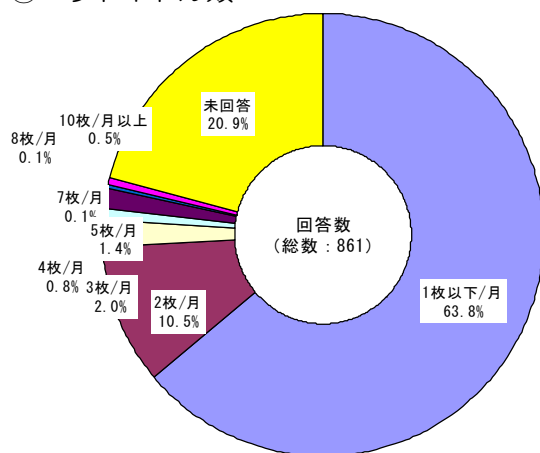


図1-14-3 ペットボトル類指定袋使用枚数

## 5-2 指定袋の配布満足度及び必要枚数

ごみ種毎における指定袋の配布満足度を表 1-3 及び図 1-15-1~3 に示す。各指定袋ともに配布枚数については「今のままで」、「多い」の回答が過半数を超えていることから、現状で十分に足りているものと判断される。また、ペットボトル類については、比較的消費量の多い時期に確認したにもかかわらず、「多い」が目立つ回答を得た。

表 1-3 指定袋配布枚数満足度

	多い	今のままで	少ない	未回答
普通ごみ類	117	469	203	72
プラスチック類	93	407	291	70
ペットボトル類	359	374	57	71

### ①普通ごみ類

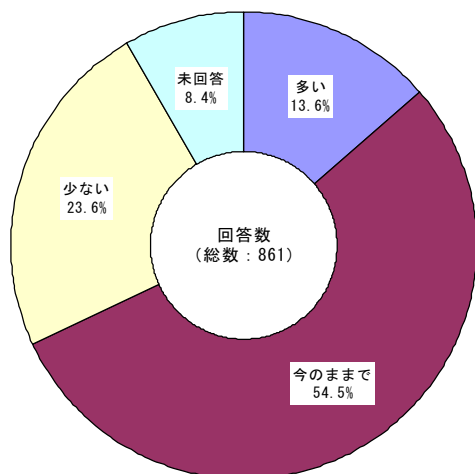


図 1-15-1 普通ごみ類指定袋満足度

### ②プラスチック類

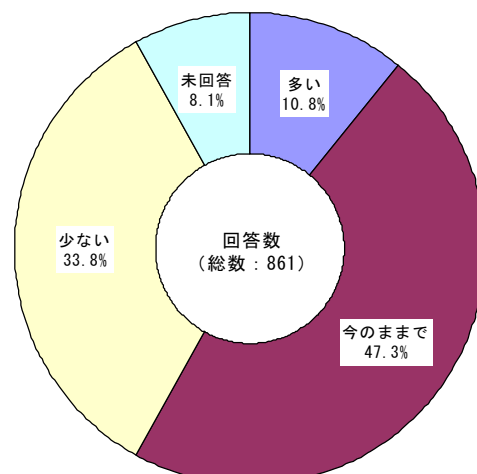


図 1-15-2 プラスチック類指定袋満足度

### ③ペットボトル類

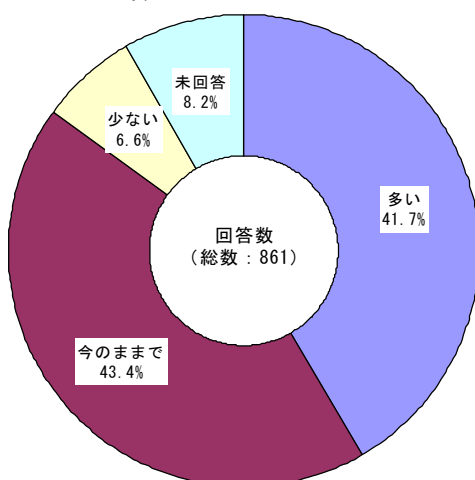


図 1-15-3 ペットボトル類指定袋満足度

また、指定袋の枚数が、足りないとは回答されたもののうち、具体的に必要枚数を回答されたものを表 1-4 及び図 1-15-4～6 に示す。

表 1-4 指定袋の必要枚数

	1枚/週	2枚/週	3枚/週	4枚/週	5枚以上/週
普通ごみ類	6	9	103	32	13
	1枚/月	2枚/月	3枚/月	4枚/月	5枚/月以上
プラスチック類	8	7	78	108	46
ペットボトル類	4	33	8	2	4

①普通ごみ類

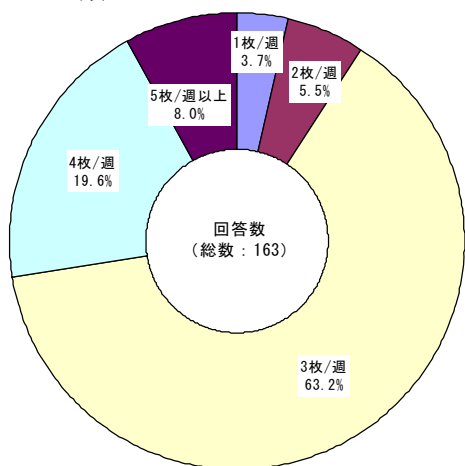


図 1-15-4 普通ごみ類必要枚数

②プラスチック類

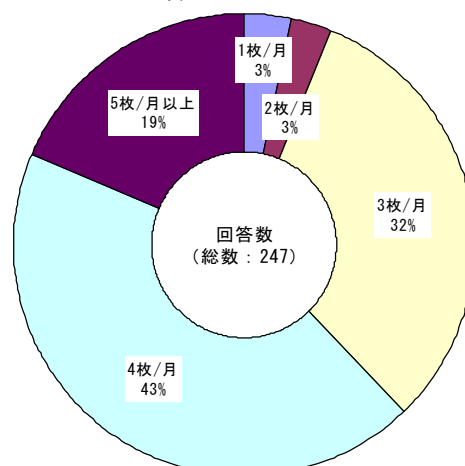


図 1-15-5 プラスチック類必要枚数

③ペットボトル類

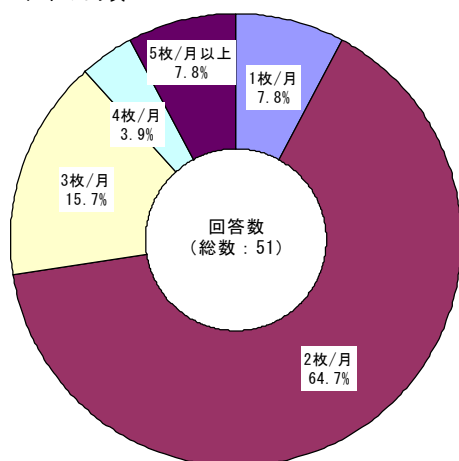


図 1-15-6 ペットボトル類必要枚数

### 5-3 指定袋の大きさについて

ごみ種毎における指定袋の大きさについて確認したところ、表 1-5 及び図 1-16-1～3 に示すとおり、いずれも「ちょうど良い」の回答が過半数を占め、ペットボトル類については、「もっと小さな袋でも良い」の割合が 25%程度占めた。

表 1-5 指定袋の大きさについて

	もっと大きな袋が良い	ちょうど良い	もっと小さな袋が良い	未回答
普通ごみ類	135	656	25	45
プラスチック類	195	598	24	44
ペットボトル類	56	542	212	51

#### ①普通ごみ類

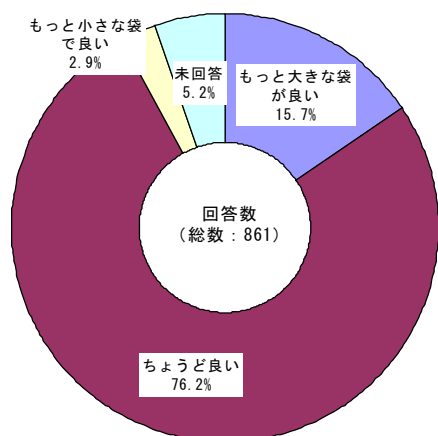


図 1-16-1 普通ごみ類指定袋の大きさ

#### ②プラスチック類

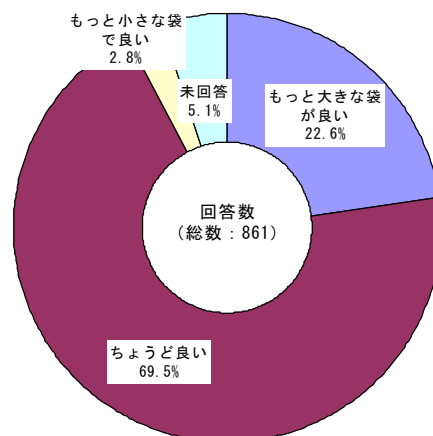


図 1-16-2 プラスチック類指定袋の大きさ

#### ③ペットボトル類

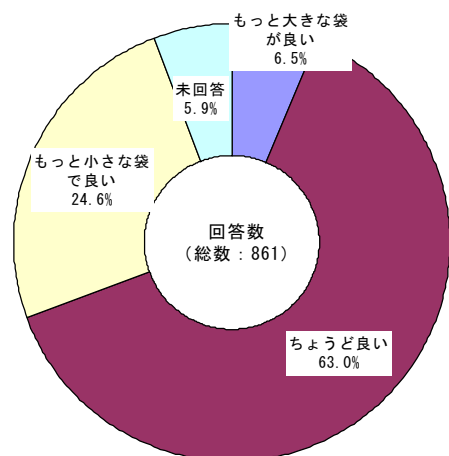


図 1-16-3 ペットボトル類指定袋の大きさ

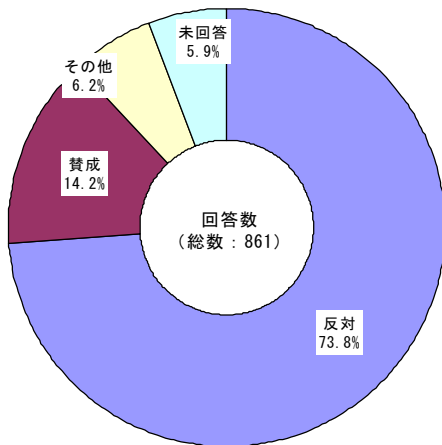
#### 5-4 ごみ減量化のために指定袋を小さくすることについて

本市のごみ減量化のために指定袋の大きさを小さくすることについて設問したところ、普通ごみ類及びプラスチック類については「反対」意見が過半数を超えたが、ペットボトル類については「賛成」が「反対」を上回る結果を得た。

表 1-6 指定袋を小さくすることについて

	反対	賛成	その他	未回答
普通ごみ類	635	122	53	51
プラスチック類	634	126	51	50
ペットボトル類	353	405	51	52

①普通ごみ類



②プラスチック類

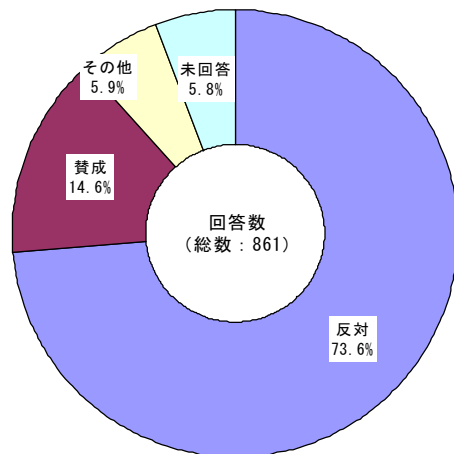


図 1-17-1 普通ごみ類指定袋の縮小について 図 1-17-2 プラスチック類指定袋の縮小について

③ペットボトル類

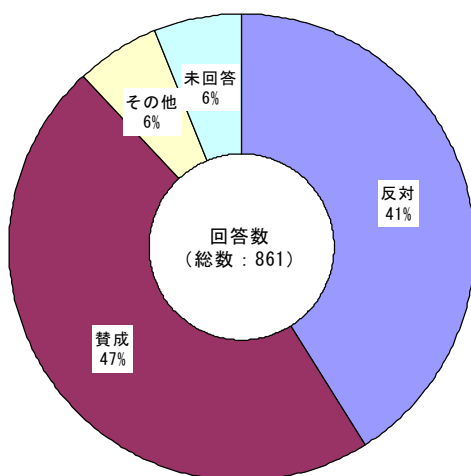


図 1-17-3 ペットボトル類指定袋の縮小について

## 6.ごみ減量化に効果がある施策

回答者にごみ減量化に効果がある施策を設問した結果、「スーパーなどでの拠点回収の拡充」が最も多く、次いで「住民団体による資源回収の普及・促進」、「生ごみ処理機の普及・啓発」が挙げられた。

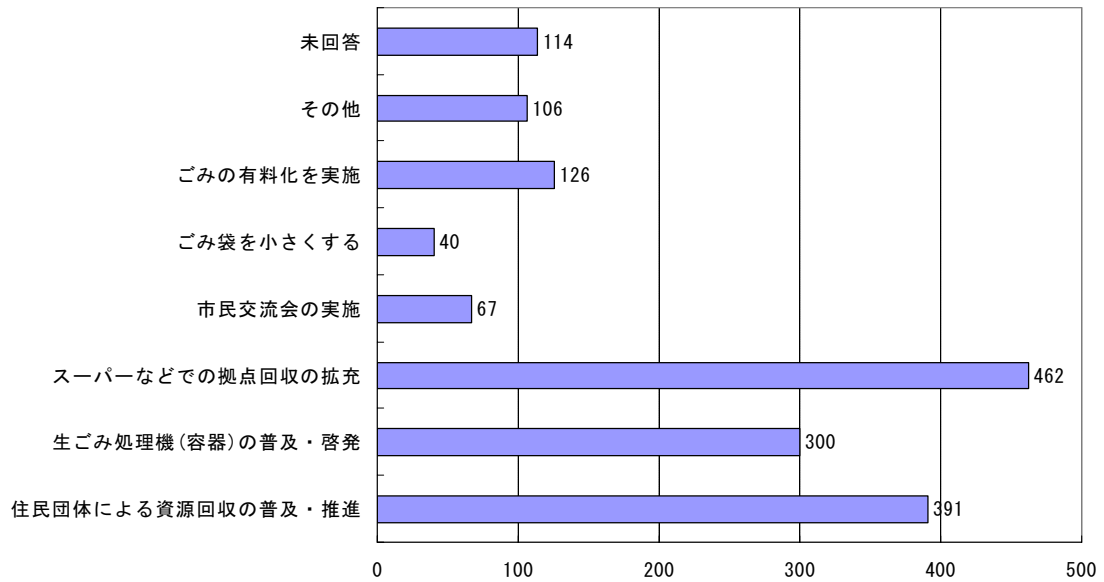


図 1-18 ごみ減量化に効果がある施策

## 7.資源化の推進に係る協力度

本市で実施している資源ごみの収集以外に、ごみの資源化を推進するための協力度を確認したところ、生ごみ以外はいずれも「協力できる」が過半数を超えた。

また、新聞・雑誌・広告紙については、「協力できる」が75%を越える高い回答を得た。

表 1-7 資源化の推進に係る協力度

	協力できる	条件が無ければ協力可能	協力できない	未回答	合計
新聞・雑誌・広告紙	651	91	18	101	861
牛乳パック	506	185	53	117	861
段ボール	570	168	25	98	861
紙製容器包装類	462	182	81	136	861
白色トレイ	564	138	41	118	861
プラスチック製容器包装類	543	158	38	122	861
生ごみ	379	216	140	126	861
びん類の色分け	585	0	174	102	861

①新聞・雑誌・広告紙

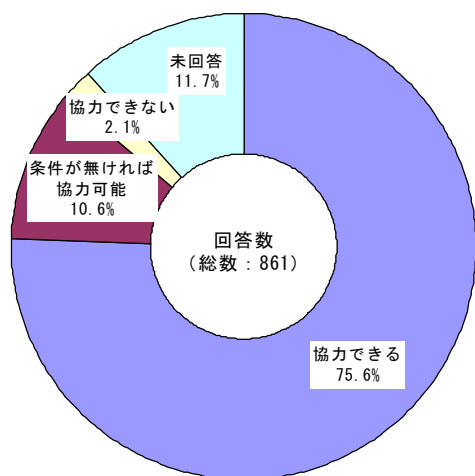


図 1-19-1 新聞雑誌広告紙の協力度

②牛乳パック

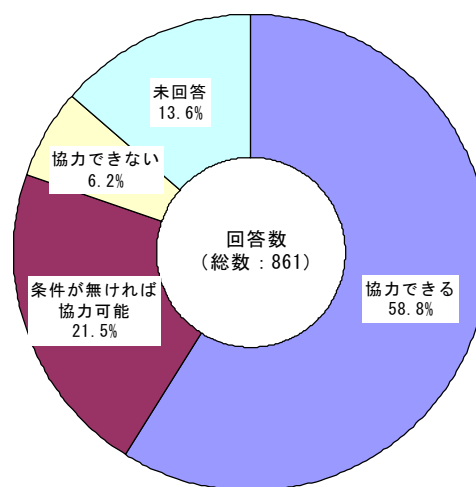


図 1-19-2 牛乳パックの協力度

③段ボール

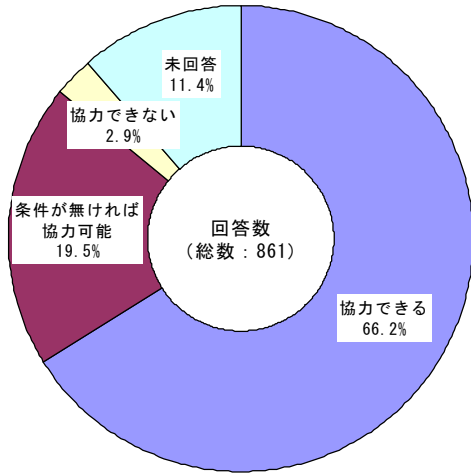


図 1-19-3 段ボールの協力度

④紙製容器包装類

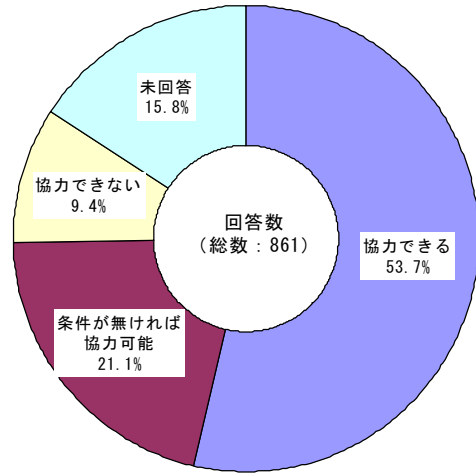


図 1-19-4 紙製容器包装類の協力度

⑤白色トレイ

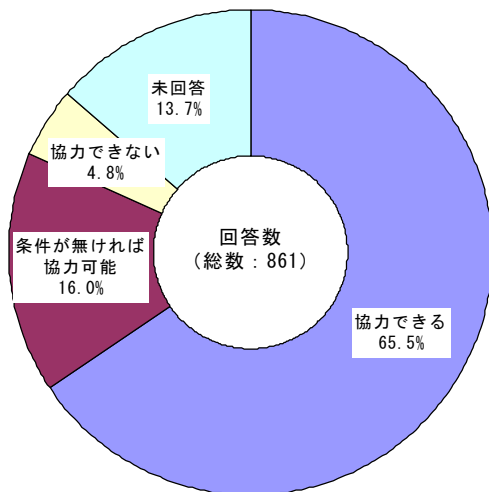


図 1-19-5 白色トレイの協力度

⑥プラスチック製容器包装類

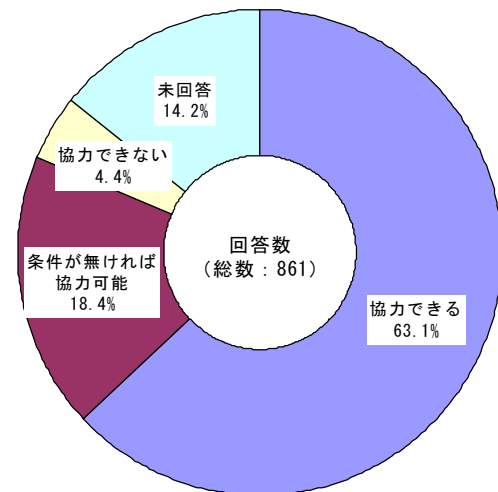


図 1-19-6 プラスチック製容器包装類の協力度



⑦生ごみ

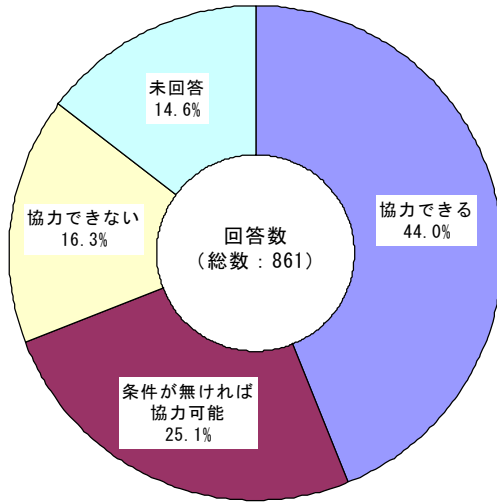


図 1-19-7 生ごみの協力度

⑧びん類

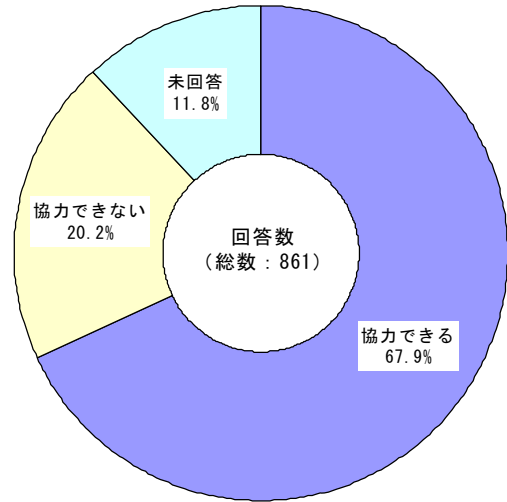


図 1-19-8 びん類の協力度

## 8.プラスチックごみの分別区分の見直しについて

プラスチック容器包装類以外の適正処理については、「経費削減や資源化が推進できるのであれば良い」、「分別区分が変わらないのであれば良い」が過半数を超え、住民の意見としては、条件が整えば、プラスチック類の中間処理について支障ないものと判断される。

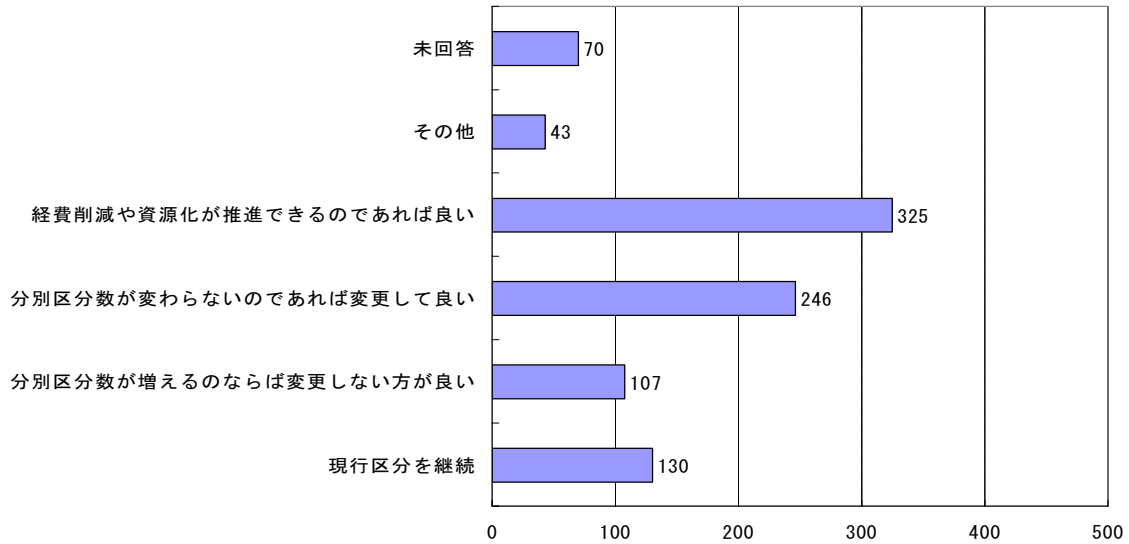


図 1-20 プラスチックごみの適正処理について

## Ⅱ. 事業者アンケート調査結果

### 1. アンケート回収状況

アンケート調査対象 300 社のうち、平成 18 年 9 月 13 日現在にて寄せられた回答数は 64 通であるため、回収率は 21.3%となる。

### 2. 事業者の概要

#### 2-1 業種

本アンケートに回答があった事業者の業種は以下のとおりである。

表 2-1 事業者の業種

	鉱業	建設業	製造業	卸売業 小売業	金融 保険業	不動産業	運輸 通信業	サービス業	未回答
内訳	0	5	18	13	3	0	3	21	1

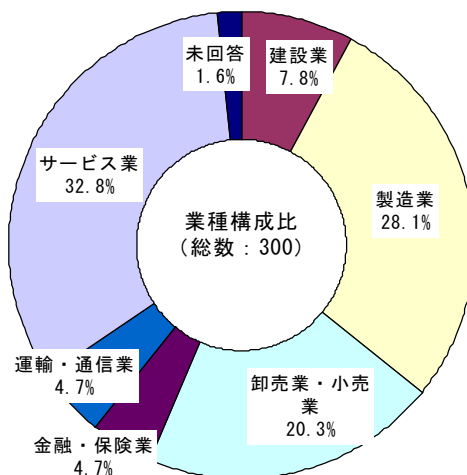


図 2-1 回答事業者の業種

なお、同一建屋内に事業所が混在しているかどうかの設問に対する回答は表-2 にとおりである。

表 2-2 住居と事務所の状況

	鉱業	建設業	製造業	卸売業 小売業	金融 保険業	不動産業	運輸 通信業	サービス業	未回答
住居フロア混在	0	0	2	2	0	0	0	5	0
単独事務所	0	5	16	8	3	0	3	16	1
未回答	0	0	0	3	0	0	0	0	0

## 2-2 従業員数と延床面積

アンケートに回答があった事業者の業種別従業員数を表 2-3、事業所の床面積を表 2-4 に示す。

表 2-3 業種別従業員数

	鉱業	建設業	製造業	卸売業 小売業	金融 保険業	不動産業	運輸 通信業	サービス業	未回答	合計
5人未満	0	2	0	2	0	0	0	1	0	5
5人以上～10人未満	0	0	3	3	0	0	0	3	0	9
10人以上～20人未満	0	0	2	3	1	0	2	3	0	11
20人以上～30人未満	0	1	1	1	1	0	0	4	0	8
30人以上～50人未満	0	1	0	1	1	0	0	6	0	9
50人以上	0	1	12	3	0	0	1	4	1	22
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 2-4 業種別事業所床面積

		単位	50m <sup>2</sup> 未満	50m <sup>2</sup> ～ 100m <sup>2</sup> 未満	100m <sup>2</sup> ～ 200m <sup>2</sup> 未満	200m <sup>2</sup> ～ 300m <sup>2</sup> 未満	300m <sup>2</sup> ～ 500m <sup>2</sup> 未満	500m <sup>2</sup> 以上	合計	未回答
建設業	総面積	m <sup>2</sup>			280.0	260.0		5,186.1	5,726.1	
	事業所数	件			2	1		1	4	1
	平均	m <sup>2</sup> /件			140.0	260.0		5,186.1	1,431.5	
製造業	総面積	m <sup>2</sup>	24.1		249.5			61,804.6	62,078.2	
	事業所数	件	1		2			11	14	4
	平均	m <sup>2</sup> /件	24.1		124.8			5,618.6	4,434.2	
卸売業・ 小売業	総面積	m <sup>2</sup>		199.4	476.2	280.0	0.0	117,034.6	117,990.2	
	事業所数	件		3	3	1	0	5	12.0	1
	平均	m <sup>2</sup> /件		66.5	158.7	280.0	—	23,406.9	9,832.5	
金融・保険 業	総面積	m <sup>2</sup>					430.0		430.0	
	事業所数	件					1.0		1	2
	平均	m <sup>2</sup> /件					430.0		430.0	
運輸・通信 業	総面積	m <sup>2</sup>						1,209.0	1,209.0	
	事業所数	件						1.0	1	2
	平均	m <sup>2</sup> /件						1,209.0	1,209.0	
サービス業	総面積	m <sup>2</sup>			300.0	501.7	1,072.0	20,045.0	21,918.7	
	事業所数	件			2.0	2.0	3.0	5.0	12	9
	平均	m <sup>2</sup> /件			150.0	250.9	357.3	4,009.0	1,826.6	
未回答	総面積	m <sup>2</sup>						15,500.0	15,500.0	
	事業所数	件						1.0	1	0
	平均	m <sup>2</sup> /件						15,500.0	15,500.0	
合計	事業所数	件	1	3	9	4	4	24	45	19

### 2-3 事業所の所在地

アンケート回答事業者の事業所所在地を図 2-2 に示す。

草津駅と国道 1 号間の繁華街にある草津第二小学校区から最も多い回答を得た。

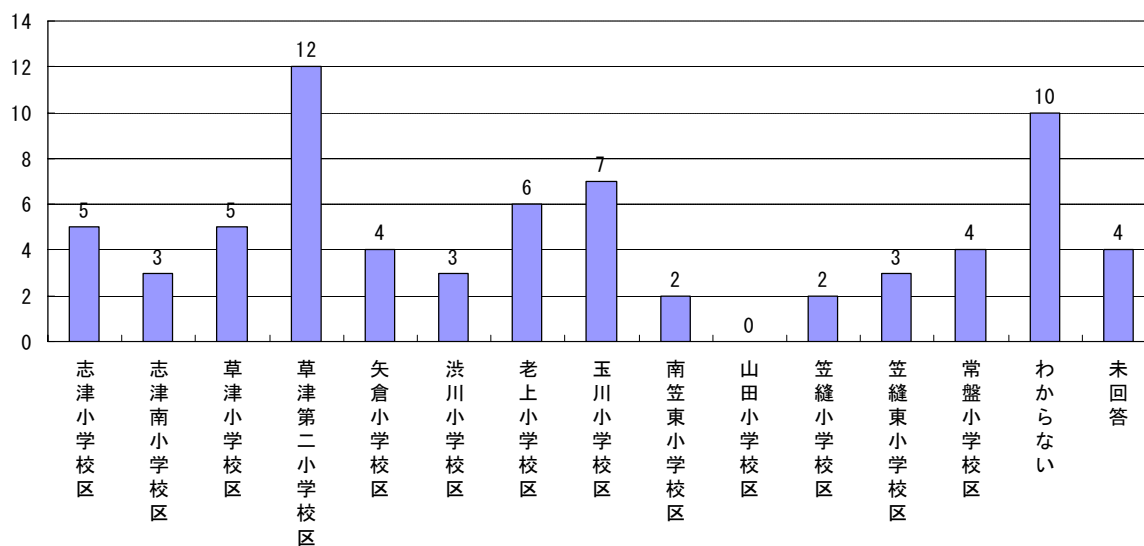


図 2-2 事業所の所在地（小学校区）

### 3.ごみや資源ごみの排出方法について

#### 3-1 ごみ排出量

事業所から排出されるごみの総排出量（産業廃棄物処理含む）と本市のクリーンセンターへ排出されるごみの量を表 2-5 に示す。

クリーンセンターへごみを搬出する場合、許可業者に委託する事業者が多い。

また、クリーンセンターへの排出量は普通ごみ類が最も多く、総排出量との割合は、38.6%となった。

表 2-5 事業所から排出されるごみ量

	単位	普通ごみ類	プラスチック類	ペットボトル類	びん類	金属類	不燃物類	小型破砕ごみ類	粗大ごみ	乾電池	蛍光管
総排出量	kg/年	2,834,651	3,544,915	2,371	10,281	7,982,860	429,812	121,057	70,547	1,954	4,152
(内)許可業者	kg/年	1,090,878	113,227	1,691	1,202	111,858	1,262	747	837	578	472
(内)直接持込	kg/年	3,200	0	0	0	0	0	2	0	10	10
事業所数	件	26	21	13	16	19	12	8	7	16	18
(内)許可業者	件	25	12	11	7	10	6	5	5	6	9
(内)直接持込	件	2	3	1	2	3	1	3	1	3	3
事業所数当たり排出量	kg/件	109,025	168,805	182	643	420,151	35,818	15,132	10,078	122	231
(内)許可業者	kg/件	43635	9436	154	172	11186	210	149	167	96	52
(内)直接持込	kg/件	1600	0	0	0	0	0	1	0	3	3

※総排出量は産業廃棄物を含む事業所からのごみ総排出量であり、(内)は本市のクリーンセンター搬入量であるため、総排出量と事業所数との合計は合致しない。

### 3-2 ごみの保管形態及び保管面積

ごみの保管形態として自社の保管場所であるか、若しくは他社と共同で保管しているかを確認した結果を表 2-6 及び図 2-3 に示す。

本アンケートの回答事業所では、自社で保管場所を確保している場合が多く確認された。

なお、保管場所の面積は 0.1m<sup>2</sup>~200m<sup>2</sup> と事業所の規模により大きく異なる回答を得たが、平均で 13.0m<sup>2</sup> 程度確保していることが確認できた。

表 2-6 ごみの保管形態

		普通ごみ類	プラスチック類	ペットボトル類	びん類	金属類	不燃物類	小型破砕ごみ類	粗大ごみ	乾電池	蛍光管
保管形態	自社	38	31	25	28	30	23	19	18	25	28
	他社と共同	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
	未回答	23	30	36	33	31	38	42	43	37	34
	合計	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64

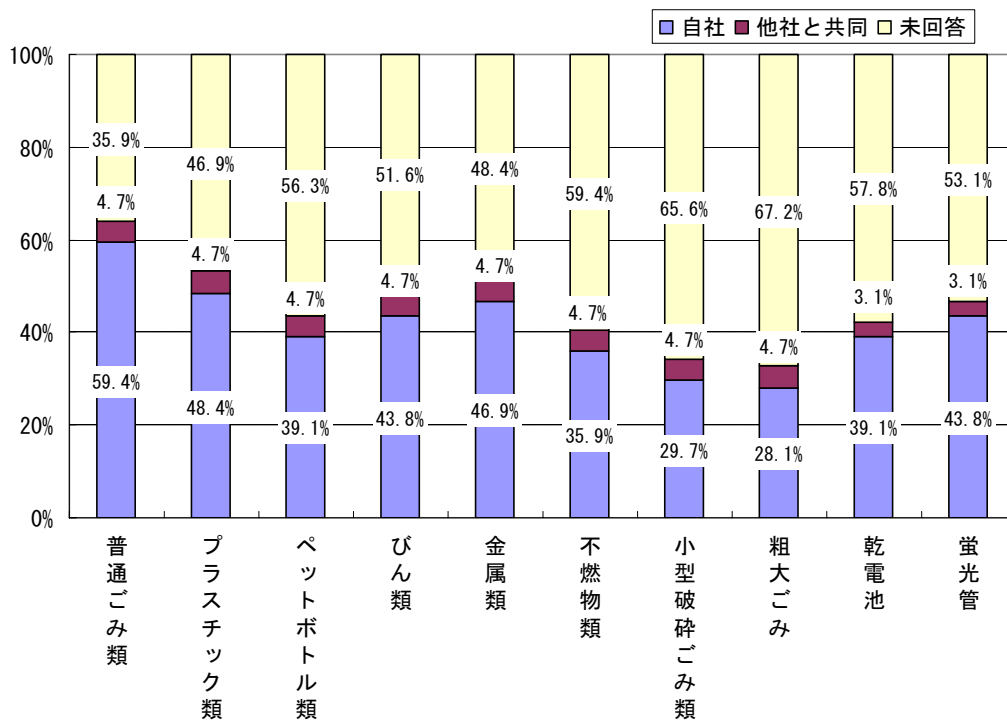


図 2-3 ごみの保管形態

### 3-3 事業者独自の資源化量

事業者が独自に資源化を実施している量をごみ種別毎に表 2-7 に示す。

最も資源化されている量が多い品目は「段ボール」であるが、資源化を実施している事業者が多い品目は、「新聞・雑誌」、「OA用紙」であることが確認される。

表 2-7 資源化量

	独自資源化量		1事業所当りの 資源化量 (kg/年/件)
	資源化量 (kg/年)	実施事業所数 (件)	
新聞・雑誌	104,717	12	8,726
OA用紙	21,907	12	1,826
段ボール	2,888,158	10	288,816
びん類	3,617	4	904
缶類	12,529	3	4,176
ペットボトル	229	2	115
発泡トレイ類	68,205	4	17,051
容器包装 プラスチック類	28,020	2	14,010
厨芥類	175,700	2	87,850
その他	201,000	5	40,200



#### 4.処理費用について

##### 4-1 クリーンセンターでの処理費用

本市クリーンセンターで処理する場合の許可業者への委託費及び直接搬入経費を確認したところ、表 2-8 のような回答を得た。

表 2-8 クリーンセンター処理経費

	単位	費用
許可業者への委託費	円/年	60,497,200
事業所数	件	51
未回答	件	13
1事業所当りの委託費	円/件	1,186,220
直接持込費用	円/年	222,400
事業所数	件	10
未回答	件	54
1事業所当りの処理費用	円/件	22,240

事業者がごみをクリーンセンターで処理する際は、許可業者へ委託する機会が多いことから、処理経費についても直接持ち込む場合より多くなっていることが確認される。

##### 4-2 資源化品目の処理経費

資源化品目の処理経費を表 2-9、表 2-10 に示す。資源化物を売却することにより利益が出ていると回答があった業者は 2 社で、いずれも 50 人以上規模の製造業であった。

表 2-9 資源化物の売却益

	単位	費用
売却益	円/年	116,200,000
事業所数	件	2
1事業所当りの売却益	円/件	58,100,000

表 2-10 資源化物の処理経費

	単位	費用
委託費用	円/年	4,810,600
売却益	円/年	80,000
損益	円/年	4,730,600
事業所数	件	6
1事業所当りの損益	円/件	788,433

## 5.ごみの資源化・減量化への意識調査

### 5-1 事業者のごみ減量化・資源化の取組

事業所におけるごみの減量化・資源化への取組を設問した回答を図 2-4 に示す。

事業所ではびん・缶の分別回収箱や古紙類の回収箱を設置している場合が多く確認される。

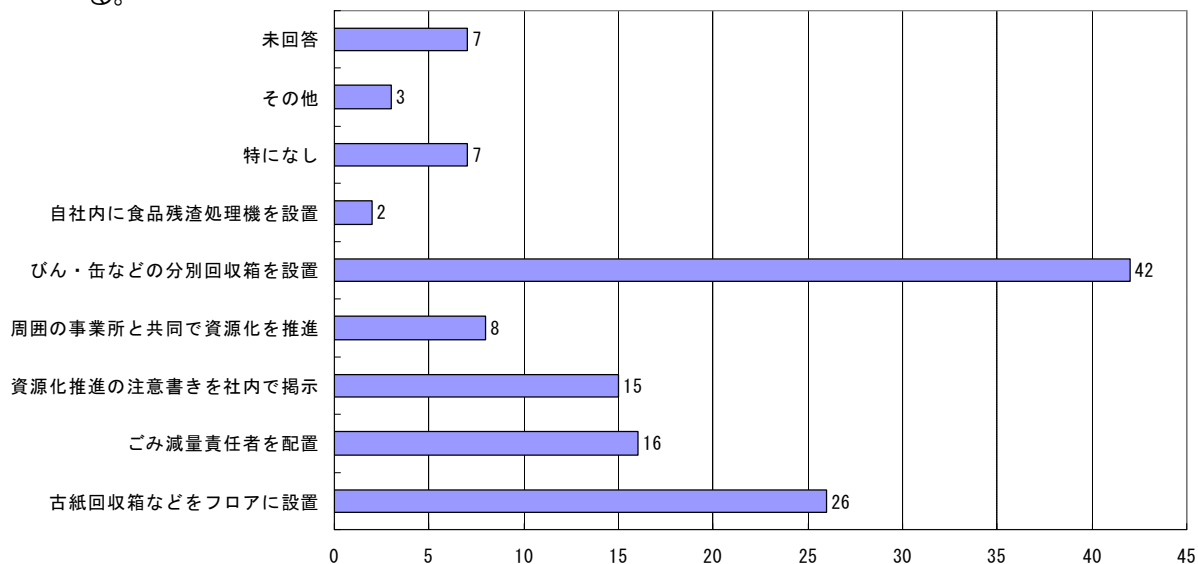


図 2-4 ごみ減量化・資源化への取組

この中で「特になし」と回答があった 7 社について資源化が困難な理由を確認したところ、「リサイクルできそうなものがない」という回答が最も多く、また、手間や経費等によるものも確認できる

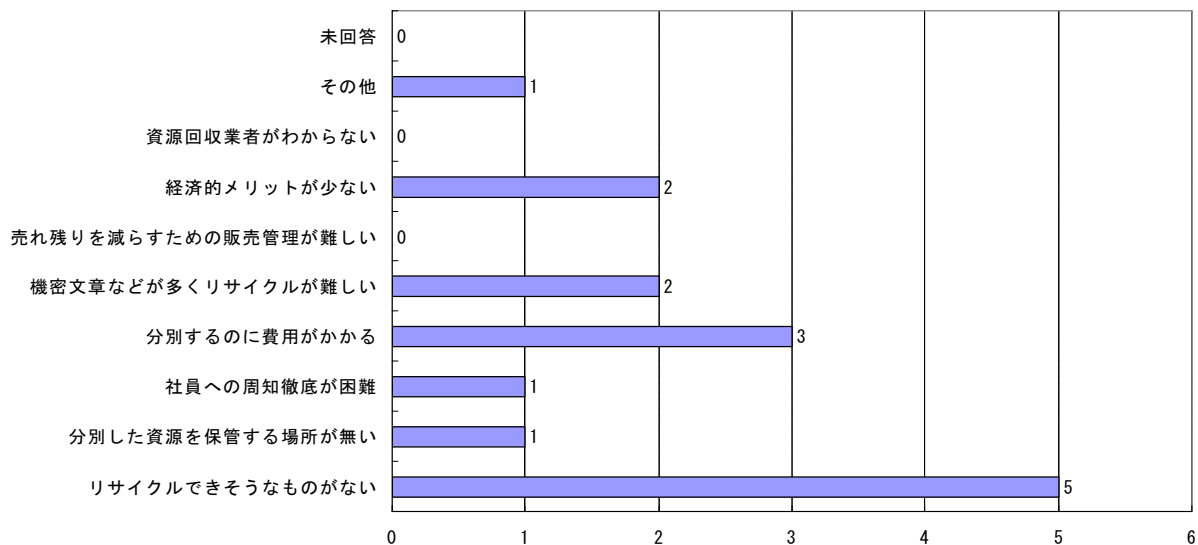


図 2-5 減量化・資源化を取り組んでいない理由

## 5-2 分別を推進できる品目

仮に資源化を進めていくとした場合に分別を推進できる品目についての回答を図 2-6 に示す。

前項で設問したごみの減量化・資源化への取組で回答の多かった古紙回収箱やびん・缶類の分別箱等で資源化が可能である古紙類やびん・缶類、ペットボトルといった品目の回答が多く確認できた。

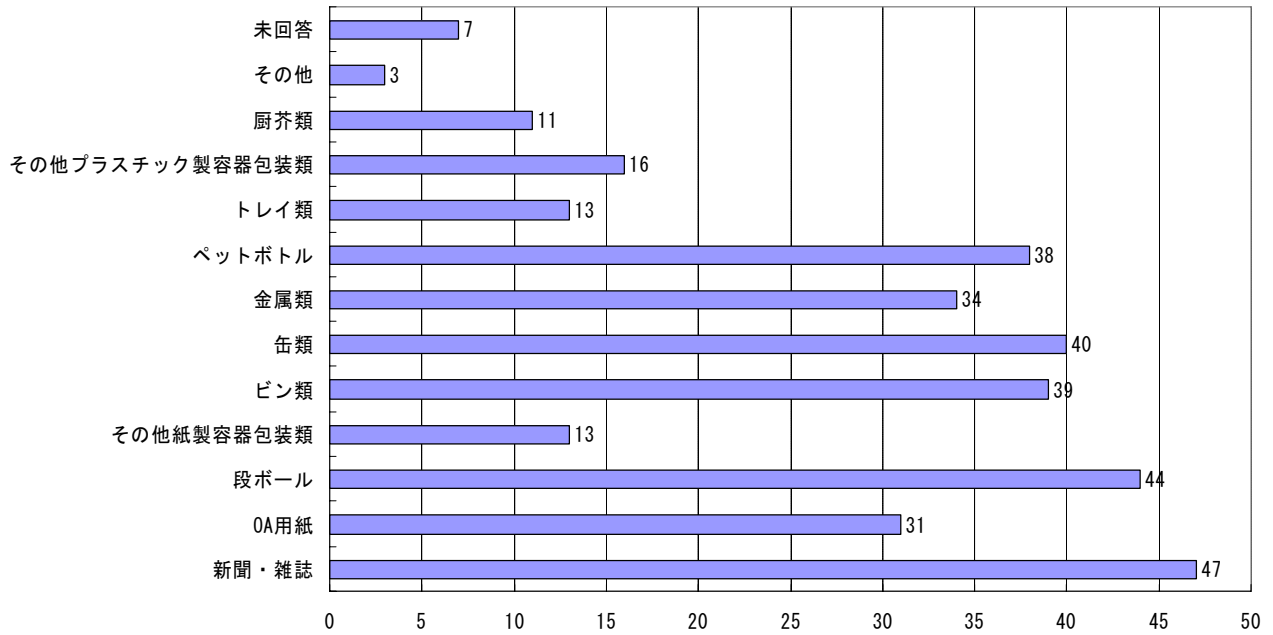


図 2-6 分別を推進できる品目

## Ⅲ. アンケート調査結果の総括

### 1. 市民アンケート調査結果

#### 1-1 回答者（1～4 頁）

本アンケート調査における回答者（ごみの排出者）は男性 38.1%に対し女性 59.6%となり、ごみ排出の役割は女性の方が多いという結果を得た。

また、中高年（40 歳以上）の回答が全体の 7 割以上（72.8%）を占め、世帯人数は 2～4 人が全体の 67.1%、住居形態は一戸建てが 74.7%、住居年数は 30 年以上が 56.4%となった。したがって、本アンケート調査結果は古くから一戸建てに居住している中高年の意見が最も反映されているものと判断される。

#### 1-2 ごみ行政に関する情報（5 頁）

回答者が知りたいごみ行政に関する情報は「分別方法」に関する情報が最も多く、また情報提供方法は「市の広報くさつ」、「町内会の回覧」が便利であるとの回答が得られた。

このことから、ごみの分別方法についての情報を市民が最も求めていることや、ごみ行政に関する情報は広報誌や回覧板といった従来から実施している手法にて提供することが最も望ましいと考えていることがわかる。

#### 1-3 ごみの排出状況について（6～13 頁）

ごみ減量の方法は「詰め替え製品の購入」、「生ごみの水切り」、「マイバックの持参」といった排出抑制施策を実践しており、「地域の資源化活動に協力（集団回収）」といったリサイクル活動に対する回答も多く得られた。

分別区分については「不燃物類」と「小型破碎ごみ類」が分かりにくいとの回答が多く、個別の排出方法については「散水ホース」、「外がビニールで内側がアルミ箔のお菓子の袋」、「保冷・保温材」、「ペット用具」について困惑しているものと判断される。

したがって今後は「不燃物類」と「小型破碎ごみ類」の分別形態の検討、個別品目に対する分別排出方法における啓発をより一層実施する必要があると考えられる。

#### 1-4 ごみ収集回数の満足度（14～17 頁）

種類ごとのごみ収集回数の満足度は「今のままで」がいずれも過半数を超え、プラスチック類を除く 7 品目については「多い」及び「今のままで」が回答数の 3/4 以上を得ており、現状の収集回数の満足度は高いものと判断される。

#### 1-5 指定袋について（18～22 頁）

普通ごみ類については 8 枚以下/月が 45.9%（9 枚以下/月なら 60.2%）、プラスチック類については 2 枚以下/月が 33.0%（3 枚以下/月なら 60.3%）、ペットボトル類は 1 枚以

下/月が 63.8%となった。また、配布枚数の満足度についてはいずれも「多い」及び「今のままで」が過半数を超えた。

なお、ペットボトル類については、本アンケート調査比較的消费量が多いと判断される 8 月後半に実施したにもかかわらず「多い」及び「今のままで」が 85.1%となった。

指定袋の大きさについては、普通ごみ類、プラスチック類、ペットボトル類いずれも「ちょうどよい」の回答が 6 割以上あり、またペットボトル類については「もっと小さな袋でよい」が 1/4 弱を占めた。

ごみ減量化のために指定袋を小さくすることについては、普通ごみ類及びプラスチック類の「反対」がいずれも 7 割を超えたのに対し、ペットボトル類は「反対」が 41%となり、「賛成」についても 47%の回答を得た。

したがって、本アンケート調査結果では、普通ごみ類、プラスチック類、ペットボトル類についての指定袋の配布枚数及び大きさについては現状で満足しており、また、ペットボトル類については袋の大きさを小さくすること等の減量対策を導入しても比較的市民の賛同を得やすいものと判断される。

ただし、回答者の内訳から判断すると、普段から比較的ペットボトルを利用していない方からの回答が多かったものと判断されるため、ペットボトル類の指定袋縮小の実施については、慎重に検討を進める必要がある。

#### 1-6 ごみ減量化に効果がある施策（23 頁）

ごみ減量化に効果がある施策については「スーパーなどでの拠点回収の拡充」、「住民団体による資源回収の普及・促進」、「生ごみ処理機の普及・啓発」等、従来から市で実施している施策の充実に対する回答が多かったが、「ごみの有料化を実施」という比較的市民から敬遠されると考えられるものについても 126 の回答（4 番目）を得た。

これは、周辺の自治体等でもごみの有料化が実施されていることから、市民の理解や関心が高まっているものと判断される。

#### 1-7 資源化の推進に係る協力度（24～26 頁）

本市で実施している資源ごみの収集以外にごみの資源化を推進するための協力度を確認したところ、「新聞・雑誌・広告紙」が 3/4 以上、「段ボール」、「白色トレイ」、「プラスチック製容器包装類」、「びん類」が 6 割以上、「牛乳パック」、「紙製容器包装類」が過半数以上「協力できる」との回答を得た。

このことから、本アンケート調査結果では、本市で資源化を推進するにあたり古紙類、トレイ、プラスチック製容器包装類の分別施策の導入について市民の理解を得やすいものと判断される。

## 1-8 プラスチックごみの分別区分の見直しについて（27 頁）

プラスチック容器包装類以外の適正処理については、「経費削減や資源化が推進できるものであれば良い」、「分別区分が変わらないのであれば良い」が過半数を超えており、条件が整えばプラスチック類の中間処理について支障は無いものと判断される。

ただし、回答者の多くは草津市立クリーンセンターに直接影響の無い区域に居住しているものと判断されるため、実施に当ってはクリーンセンター周辺住民との十分な協議の実施が必要である。

## 2.事業者アンケート調査結果

### 2-1 事業者の概要（28～30 頁）

本アンケートの回答者は 64 であり、サービス業が 21 社、製造業が 18 社、卸売業・小売業が 13 社となっており、そのうち 51 社が単独事務所となっている。また、従業員 50 人以上が 22 社、事業所延べ床面積 500m<sup>2</sup> 以上が 24 社あった。

### 2-2 ごみや資源ごみの排出方法について（31～33 頁）

本市のクリーンセンターにごみを排出する場合、許可業者に委託する事業者が比較的多く確認できた。また、クリーンセンターへの排出量は普通ごみ類が最も多く、総排出量との割合は 38.6%となった。

ごみの保管形態は自社で確保している場合が多く、保管面積は 0.1～200m<sup>2</sup> と事業所の規模により大きく異なる回答結果を得た。

事業者独自の資源化量としては「段ボール」が最も多いが、資源化を実施している事業者が最も多い品目は「新聞・雑誌」、「OA 用紙」であり、いずれも古紙類に対し積極的に資源化が実施されていることが判る。

### 2-3 処理費用について（34 頁）

本市クリーンセンターで許可業者に委託し処理する場合の事業者数は 51 で、委託費用の平均は 1,186 千円であるのに対し直接持ち込み事業者数は 10 でその費用の平均は 22 千円となっている。

資源化物を売却する際、利益が生じると回答があった事業者は 2 であり、1 事業者当りの売却益は 58,100 千円に上ったが、いずれも 50 人以上の製造業であることから大きな売却益を得たものと判断される。

### 2-4 ごみの資源化・減量化への意識調査（35～36 頁）

事業者のごみ減量化・資源化への取り組みについては、事業所内に「びん・缶などの分別回収箱を設置」が最も多く、次いで「古紙回収箱などをフロアに設置」となり、資源物の分別に対する回答が多いという結果を得た。なお、「特にない」との回答があった 7 社の

うち「リサイクルできそうなものがない」との回答が5あった。

分別を推進できる品目については「新聞・雑誌」、「段ボール」といった古紙類が多く現状で資源化を実施している「ペットボトル」、「缶類」、「びん類」等も回答数が多いという結果を得た。

したがって、古紙類の分別収集を実施した場合、市民と同様、事業者にも比較的協力を得やすいものと判断される。